

佐用町の子どもたちのより良い教育環境を考えるアンケート調査

～みんなで未来の学校を考えましょう～／佐用町立学校の在り方考える会

集計結果等報告書

佐用町立学校の在り方検討委員会

目次

- I. あなたのお子様についての集計・分析結果・・・P.1

- II. 町内の小学校についての集計・分析結果・・・P.5

- III. 町内の中学校についての集計・分析結果・・・P.20

- IV. その他についての集計・分析結果・・・P.33

- V. アンケート全体のまとめについて・・・P.54

- VI. ～みんなで未来の学校を考えましょう～/
 佐用町立学校の在り方を考える会 開催結果報告・・・P.56

佐用町の子どもたちのより良い教育環境を考えるアンケート調査

集計結果報告

1. 調査時期

令和7年10月28日(火)～11月9日(日)【2.調査対象のうち①と②の方】

令和7年11月6日(木)～11月21日(金)【2.調査対象のうち③から⑥の方】

2. 調査対象

- ① 未就学児の保護者、保育園、幼稚園にお子様がお通われている保護者
- ② 小・中学校にお子様がお通われている保護者
- ③ 自治会長、各地域づくり協議会会長・センター長
- ④ 町民の方(無作為500人程度)
- ⑤ 町立学校教職員
- ⑥ 児童生徒(小学校4年生～中学校3年生)

3. 調査方法

■回答方法

- ・アンケート用紙による回答
- ・ロゴフォームによるインターネット回答
(QRコード付きアンケート)

■回収方法

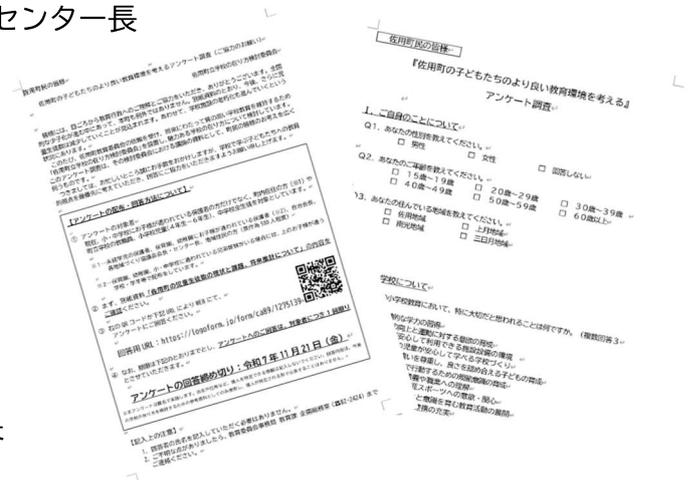
- ・郵送(返信用封筒利用)
- ・ロゴフォーム(QRコード付きアンケート)

4. 実施人数・回答人数

実施人数：1,954人 回答者数：1,388人 回答率：71.03%

<内訳>

- ① 町民 632人 回答者数：335人 回答率：53.00%
(無作為選出、自治会長、地域づくり協議会会長及びセンター長)
- ② 保護者 646人 回答者数：439人 回答率：67.95%
(小中学校児童生徒保護者及び未就学児保護者)
- ③ 児童生徒 554人 回答者数：515人 回答率：92.96%
(小学校4年生～中学校3年生)
- ④ 町立学校教職員 122人 回答者数：99人 回答率：81.14%





I. あなたのお子様についての集計・分析結果

I. あなたのお子様についての集計・分析結果(保護者アンケート)

Q. 現在、お子様は下記のどの区分に当てはまりますか。

項目	保護者 (件数)
保育園、幼稚園に通園	113
小学校に通学	275
中学校に通学	177
区域外の学校に通学	15
未就学	28
未回答	3

Q. 現在、町内の小学校に通われているお子様をお持ちの方にお聴きいたします。現在、どの小学校に通われていますか。

項目	保護者 (件数)
佐用小学校	115
上月小学校	60
南光小学校	58
三日月小学校	42

Q. 現在、町内の小学校に通われているお子様をお持ちの方にお聴きいたします。現在、どのような方法で小学校に通われていますか。

項目	保護者 (件数)
徒歩	159
スクールバス	108
保護者による送迎	7
その他	1

Q. 現在、町内の小学校に通われているお子様をお持ちの方にお聴きいたします。通学の時間は、どれぐらいになりますか。

項目	保護者 (件数)
30分以内	220
30分～1時間以内	53
1時間以上	2

Q. 現在、町内の中学校に通われているお子様をお持ちの方にお聴きいたします。現在、どの中学校に通われていますか。

項目	保護者 (件数)
佐用中学校	77
上月中学校	50
上津中学校	28
三日月中学校	22

Q. 現在、町内の中学校に通われているお子様をお持ちの方にお聴きいたします。現在、どのような方法で中学校に通われていますか。

項目	保護者 (件数)
徒歩	37
自転車	119
スクールバス	14
保護者による送迎	7

Q. 現在、町内の中学校に通われているお子様をお持ちの方にお聴きいたします。通学の時間は、どれぐらいになりますか。

項目	保護者 (件数)
30分以内	154
30分～1時間以内	23
1時間以上	0

- ・ 小学校の通学では徒歩とスクールバスが計 97%と「歩く／乗る」が中心である。一方、中学校では自転車での通学が主流（67%）に転換する。
 - ・ 通学時間は小学校より中学校が若干短め（30 分以内は中学校 87%/小学校 80%。小学校は 30～60 分層が約 2 割、60 分以上は 0.7%）。
 - ・ 在籍分布は佐用エリアの比重が大きく、小中学校とも佐用が最多。
 - ・ 佐用町でのスクールバスによる通学については、小学校については各小学校を中心に小学校からおおむね 3 km以上の距離にある集落の児童を、中学校については各中学校からおおむね 7 km以上の距離にある集落の生徒を対象としている。
- 統合・再編を検討する際、小学校の通学時間増加とスクールバスの柔軟な運行が重要な課題である。



Ⅱ. 町内の小学校についての集計・分析結果

Ⅱ. 町内の小学校についての集計・分析結果(抜粋)

(1) 保護者・町民・町立学校教職員(総数 873)

Q. これからの小学校教育において、特に大切だと思われることは何ですか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
基礎的な学力の習得	338	245	73	656
体力の向上と運動に対する意欲の育成	132	64	11	207
児童が安心して利用できる施設設備の環境	97	48	13	158
すべての児童が安心して学べる学校づくり	180	159	59	398
お互いの違いを尊重し、良さを認め合える子どもの育成	222	146	60	428
集団や社会で行動するための規範意識の育成	170	138	37	345
働くことの意義や職業への理解	28	20	5	53
生涯学習や生涯スポーツへの意欲・関心	29	18	4	51
郷土愛やふるさと意識を育む教育活動の展開	28	52	15	95
家庭や地域との連携の充実	53	65	11	129
わからない	3	3	0	6

〈結果〉

回答数の多い順に整理すると、「基礎的な学力の習得 (656 件/75%)」が最も多く、続いて「お互いの違いを尊重し、良さを認め合える子どもの育成 (428 件/49%)」「すべての児童が安心して学べる学校づくり (398 件/46%)」が上位を占めた。

また「集団や社会で行動するための規範意識の育成 (345 件/40%)」「体力の向上と運動に対する意欲の育成 (207 件/24%)」など、学力と人格形成の両面を重視する傾向がみられた。

〈分析〉

- ・基礎学力の確実な定着を求める声が圧倒的に多い。
- ・安心・安全な学校環境の整備や、他者理解・共生を重視する回答も多く、子どもの心身の育ちへの関心が高い。
- ・「働くことの意義」や「生涯学習」などは比較的少なく、保護者の関心は学校生活の基盤づくりに集中している。

Q. (小学校の)子どもたちのより良い教育環境を考えた時、特に大切にすべきと考えていることは何ですか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
動植物に親しむなど豊かな心を培う周辺の自然環境	57	47	5	109
校舎や体育館など、整備された施設環境	91	45	38	174
児童の健全な育成のための支援と指導の体制が充実している環境	252	199	66	517
仲間たちと切磋琢磨できる環境	180	104	21	305
多様なスポーツや文化活動ができる環境	79	46	3	128
自然災害等に強い施設・設備	45	21	5	71
安全で安心して学校生活を送ることができる環境	250	193	71	514
安全で安心して登下校できる交通環境	125	65	18	208
地域との人のつながり	51	66	22	139
高齢者などとの交流	4	11	0	15
誰でも使いやすい施設・設備	10	11	6	27
町内の他の地域との交流	13	8	4	25
教職員の高い専門性と資質が整った環境	111	101	18	230
わからない	3	4	0	7

〈結果〉

「児童の健全な育成のための支援と指導体制が充実している環境（517件/59%）」「安全で安心して学校生活を送ることができる環境（514件/59%）」が突出して多く、次いで「仲間と切磋琢磨できる環境（305件/35%）」「安全で安心して登下校できる交通環境（208件/24%）」「校舎や体育館など、整備された施設環境（174件/20%）」が続いた。

〈分析〉

- ・多くが“学校の日常に直結する安全・支援体制”を重視。
- ・自然環境や地域連携などの教育的価値も支持があるが、優先順位としては支援体制や安全確保が上位。
- ・中学校の課題とも共通しており、社会面での支援が求められていると推測する。

Q. 町内の小学校の児童数が減少しています。児童数の減少への対応として望ましいと思われるものはどれですか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
小学校の統合再編を積極的にすべきである	115	77	6	198
小学校の統合再編を検討すべき時期にきている	201	171	38	410
児童数が減少して複式学級となっても現行の学校のままでよい	76	59	41	176
わからない	47	28	14	89

〈結果〉

「統合再編を検討すべき時期にきている（410件/47%）」が最も多く、「総合再編を積極的にすべきである（198件/23%）」と合わせると、約7割が統合に前向き。一方で「現行の学校のままでよい（176件/20%）」も一定数あり、地域性への配慮も必要であることが示されている。

〈分析〉

- ・多くが現状のままでは教育に支障が生じる可能性を認識。
- ・ただし、現行維持を望まれる回答も一定割合あり、地域ごとの事情に応じた丁寧な説明が不可欠。

Q. もし小学校が統合再編されとした場合、特に重視すべきことは何ですか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
適正な児童数、学級数	233	171	39	443
適正な教職員数	249	144	53	446
通学手段	244	163	44	451
通学距離や通学時間	163	153	59	375
通学時の安全確保	177	94	25	296
地域とのつながり	56	70	26	152
学校の跡地利用	38	45	3	86
通学環境の変換に伴う教育関連経費の増加	36	36	13	85
わからない	9	11	2	22

〈結果〉

「通学手段（451件/52%）」「適正な教職員数（446件/51%）」「適正な児童数・学級数（443件/51%）」が上位。通学関連では「通学距離や通学時間（375件/43%）」「通学時の安全確保（296件/34%）」も多く、通学への懸念が顕著。

〈分析〉

- ・統合への賛意はあるが、最大の懸念は“通学環境”。
- ・適正規模確保により教育水準の維持・向上が期待されている。

Q. 「通学距離や通学時間」と回答した方にお伺いします。もし統合や再編がおこなわれ、お子さんがスクールバス等での通学で1時間を超えることになった場合、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。(保護者のみの質問)

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
通学時間が長くなっても特に問題はないと考える	1	-	-	1
多少の負担はあるが、やむを得ないと考える	41	-	-	41
子どもへの負担が大きくなるため、できるだけ避けたい	102	-	-	102
通学時間が1時間を超えるのであれば、転校や引っ越しを考えたい	13	-	-	13
わからない	6	-	-	6

〈結果〉

「子どもへの負担が大きくなるため、できるだけ避けたい(102件/63%)」が最多で、通学負担を強く懸念する傾向が明確。「多少の負担はあるが、やむを得ない(41件/25%)」はあるが少数。

〈分析〉

- ・統合の許容範囲は「通学1時間以内」が大きな目安となる。
- ・遠距離通学への抵抗感が強く、統合計画の中で慎重な検討が必要。

Q. 資料2ページにある「令和7年度以降 小学校 学年別児童数推移予測」を踏まえて、佐用町全体のことを考えた時や通学距離などを考えた時、現在の4小学校をどのようにすることが望ましいと思われますか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
4校を3校に統合再編をした方が良いと思う	57	38	9	104
4校を2校に統合再編をした方が良いと思う	95	82	17	194
4校を1校に統合再編をした方が良いと思う	118	85	7	210
今のままがよい	101	71	44	216
わからない	68	59	22	149

〈結果〉

「今のままがよい (216 件/25%)」「4 校を 1 校に統合再編をした方がよいと思う (210 件/24%)」はほぼ同数である。次いで「4 校を 2 校に統合再編をした方がよいと思う (194 件/22%)」が続く。

〈分析〉

- ・回答が分散しており、町民の中でも意見が大きく割れている。
- ・最適な規模や通学距離のバランスに対し、判断が分かれており、統一的な結論が得られにくい。

Q. もし小学校が統合再編となった場合、中学校とのかかわりについて、何が必要と思われるか。(保護者と町民のみの質問)

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
教員の交流など、学習指導における中学校との連携の推進	119	147	-	266
学校行事等の中学校との一体的な運営	168	125	-	293
小・中学校における一貫したカリキュラムの設定	191	174	-	365
小・中学校の統合	93	92	-	185
特に必要は感じない	57	24	-	81
わからない	59	43	-	102

〈結果〉

「小・中学校における一貫したカリキュラムの設定 (365 件/48%)」「学校行事等の中学校との一体的な運営 (293 件/38%)」「教員の交流など、学習指導における中学校との連携の推進 (266 件/34%)」が多く、“小中の連携強化”への期待が大きい。

〈分析〉

- ・統合を契機に、小中一貫的な教育体制を求める傾向が強い。
- ・学校の物理的統合だけでなく、教育内容の継続性を重視している。

Q. もし小学校が統合再編されずに現行のままとした場合、特に重視すべきことは何ですか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
少人数教育体制の充実	286	192	71	549
複式学級に対応できる教員の研修・充実	172	162	62	396

他校との交流学习の充実	161	109	42	312
安全で安心な学習環境の提供	135	83	31	249
学力の充実	221	142	31	394
授業形態の工夫(オンライン授業等)	74	80	9	163
わからない	18	22	0	40

〈結果〉

「少人数教育体制の充実(549件/63%)」が圧倒的に多い。次いで「複式学級に対応できる教員の研修(396件/45%)」「学力の充実(394件/45%)」「他校との交流学习の充実(312件/36%)」。

〈分析〉

- ・ 現行維持の場合の最大課題は「教育の質の低下」。
- ・ 複式学級への対応や学力保障など、教職員配置・指導力向上が必須。

(2)児童生徒(総数 515)

Q. あなたの通っている(通っていた)小学校をどう思っていますか。

項目	児童生徒 (件数)
勉強や運動を頑張っている	23
地域の人とのふれあいがある	108
友だちがたくさんいる	262
自然がたくさんある	221
楽しい行事がたくさんある	239
先生と安心して関わることができる	131
校舎や体育館がきれい	69
わからない	38

〈結果〉

回答では、「友だちがたくさんいる」(262件/51%)が最も多く、次いで「楽しい行事がたくさんある」(239件/46%)、「自然がたくさんある」(221件/43%)となっている。また、「先生と安心して関わることができる」(131件/25%)や「地域の人とのふれあいがある」(108件/21%)といった人との関係性に関する評価も一定数見られた。一方、「校舎や体育館がきれい」(69件/13%)は比較的少ない結果となっている。

〈分析〉

小学校高学年の児童は、学校を学習の場としてだけでなく、友人関係や行事を通じて安心して過ごせる生活の場として評価していることがうかがえる。特に「友だち」「行事」「自然」といった日常体験に直結する要素が重視されており、施設面よりも人間関係や雰囲気
が学校評価の中心となっている点が特徴的である。

Q. 町内の小学校の児童数が減ってきていますが、これからどうしていけばいいと思いますか。

項目	児童生徒 (件数)
他の学校と一緒にあって、人数が増えた方が良くと思う	136
児童数が少なくなっている小学校と一緒にする方が良くと思う	173
今のままがよい	139
わからない	67

〈結果〉

「児童数が少なくなっている小学校と一緒にする方が良くと思う」(173件/34%)、「他の学校と一緒にあって、人数が増えた方が良くと思う」(136件/26%)といった統合を肯定的に捉える回答が一定数見られた。一方で、「今のままがよい」(139件 27%)も同程度存在している。

〈分析〉

児童の間では、人数が増えることによる友人関係や活動の広がりへの期待と、現在の学校生活が変わることへの不安が併存していると考えられる。統合そのものの是非というよりも、「自分の学校生活がどうなるのか」を基準に判断している様子がうかがえる。

Q. 町内の小学校の児童数が減ってきていますが、もし何年か先に、あなたの通っている(通っていた)小学校が他の学校と一緒になることがあれば、賛成ですか、反対ですか。

項目	児童生徒 (件数)
賛成する	324
反対する	104
わからない	87

〈結果〉

「賛成する」(324件/63%)が最も多く、「反対する」(104件/20%)、「わからない」(87件/17%)を大きく上回っている。

〈分析〉

児童数減少という状況を踏まえ、統合を現実的な選択肢として受け止めている児童が多いと考えられる。一方で、反対や判断保留の回答も一定数あり、統合後の学校生活に対する具体的なイメージが十分に持てていない児童も存在していることが示唆される。

Q. あなたの通っている（通っていた）小学校について、良くなってほしいことは何ですか。

項目	児童生徒 (件数)
友だちがたくさんできるようになってほしい	172
学校行事が活発になってほしい	218
他の地域の小学生ともっと交流がした	206
地域の人々との交流を増やしてほしい	122
校舎や体育館などが新しくなってほしい	124
安全で安心して利用できる施設になってほしい	171
わからない	64

〈結果〉

「学校行事が活発になってほしい」(218件/42%)、「他の地域の小学生ともっと交流がしたい」(206件/40%)が多く、次いで「友だちがたくさんできるようになってほしい」(172件/33%)、「安全で安心して利用できる施設になってほしい」(171件/33%)が続いている。

〈分析〉

児童は、学校生活において人との交流や体験の充実を強く求めていることが分かる。行事や交流の活性化は、学校規模の拡大や統合によって期待される効果として捉えられており、統合への前向きな意識につながっていると考えられる。

Q. もし町内4校の小学校が他の学校と一緒にする場合、特に大切なことは何ですか。

項目	児童生徒 (件数)
クラス替えができる学級数	182
大きな学校行事	217
他の学校との交流	139
地域の人々との交流	88
安全で安心な学校施設	145
通学距離や通学時間	212
通学時の安全	164
通学の方法	115
わからない	38

〈結果〉

「大きな学校行事」(217件/42%)、「通学距離や通学時間」(212件/41%)が上位を占め、「クラス替えができる学級数」(182件/35%)、「通学時の安全」(164件/32%)も多く挙げられている。

〈分析〉

統合による教育活動の充実への期待と同時に、通学環境や安全面への強い関心が示されている。児童にとって、統合が成立するためには、安全で無理のない通学が重要な前提条件であることが明確である。

(3) ■■小学校4校に関する自由記述まとめ■■

「4校を数校に統合再編をした方が良い」を選択された方にお伺いします。
あなたの考える統合案があれば、教えてください。

①保護者の意見

(ア)件数表

項目	定義	件数
A	4校 → 1校 (場所指定なし)	25
B	4校 → 1校 (佐用中心)	7
C	4校 → 2校 (ペア統合)	13
D	3校 → 1校 + 佐用単独	12
E	特定2校のみ先行統合 (部分統合)	31
F	上月単独、または上月以外が統合	0
G	条件付き・段階統合	26
H	小中一貫／義務教育学校案	5
I	慎重・現状維持・反対	1
J	その他	12
合計		132

(イ)主な意見(寄せられたご意見の中から主なものを抜粋して記載)

【A：4校 → 1校 (場所指定なし)】

- ・4校全てを統合したらいいと思う。
- ・子どもの人口がどんどん減少していく中、少しずつ統合している時間とお金が無駄だと思うので、統合するなら4校すべて統合した方が良く思う。

【B：4校 → 1校（佐用中心）】

- ・中心部にある佐用小学校に統合し、他の地域の児童はスクールバスで登校できる仕組みにすれば良いと思う。
- ・全てを佐用小学校に統合した方がいい。他地域より利便性はいいと思う。ただ駐車場の狭さが問題なのでそこは改善するしかないと思う。

【C：4校 → 2校（ペア統合）】

- ・佐用、上月で1校。南光、三日月で1校にしたらいいと思います。

【D：3校 → 1校 + 佐用単独】

- ・小学校(上月、三日月、南光)は3校を1校に統合再編(佐用小はそのまま)。
- ・減少の進みが早い3校(南光、三日月、上月)を1校にするのが望ましい。しかし範囲が広いため、そこは難しいのかなと思います。

【E：特定2校のみ先行統合（部分統合）】

- ・南光小学校と三日月小学校が統合するのが良い。
- ・三日月小学校、南光小学校は、各クラスの人数が少ないと聞いています。通学の面から考えてもまずは、その2校の統合を優先したらいいのではと思います。

【G：条件付き・段階統合】

- ・近い地域から優先に統合。
- ・児童数が減少している学校を優先して統合する方がよいと思う。

【H：小中一貫／義務教育学校案】

- ・先々の事を考えて、佐用町で全ての小中学校を1校に統合して、小中の一貫校にするのが良いと考えます。

【I：慎重・現状維持・反対】

- ・統合することが目的になってはならない。子どもたちにとってより良い教育ができることを色々考えた結果、「統合が良いね」ってなるのが良い流れかと思う。そのためには、別紙に書いてある以外のあらゆる学校のあり方のメリット、デメリットを洗いだし、子ども含めてみんなで共有して、考える必要がある。仮に統合しても今までの教育と変わりが無い内容のままでは意味がない。子どもたちが毎日より安心しより満足して学習できるよう充実させることが必要。

【J：その他】

- ・資料では児童数が減少していくことが明確なため、今後高校生のように、たつの市や姫路市など他市の学校に通学するように検討してはいかがでしょうか。先生の人員減少対策にもなり、先生の負担も減らせるし、教育関係のコストの削減も図れる。

- ・1学年2、3クラスは欲しい。子ども同士の人間関係と相互作用の固定化は勿論だが、それをみている大人（保護者含）の子どもへの視点も固定化された結果が自尊心の低さ（11月の広報紙）を招く1因ではないかと感じている。
- ・複数クラスあることで、同学年の先生達と関われ、クラス対抗などで大人と子ども同士の一体感なども経験して欲しい（組織の経験）。都会の小学校でも1年生から同じクラスで持ち上がらないのには訳があると思う。

②町民の意見

(ア)件数表

項目	定義	件数
A	4校 → 1校（場所指定なし）	19
B	4校 → 1校（佐用中心）	4
C	4校 → 2校（ペア統合）	24
D	3校 → 1校 + 佐用単独	11
E	特定2校のみ先行統合（部分統合）	19
F	上月単独、または上月以外が統合	3
G	条件付き・段階統合	15
H	小中一貫／義務教育学校案	3
I	慎重・現状維持・反対	3
J	その他	12
合計		113

(イ)主な意見(寄せられたご意見の中から主なものを抜粋して記載)

【A：4校 → 1校（場所指定なし）】

- ・「子どもの人数の減少を考えれば、1校にまとめる事で教師の数を減らせます。子ども達の為になるのではと思います。」
- ・佐用町全体で6年後には200名も減少することが予測されているのであれば、とりあえず3校や2校にするのではなく、先を見て1校にすべきではないかと思います。

【B：4校 → 1校（佐用中心）】

- ・今後、上月・南光・三日月小学校の1クラスの人数が10名を下回る想定なので、佐用小学校に統合を図るべきだと考えます。ただ、佐用小学校の校舎自体も老朽化していることから、校舎の建て替えは必要と考えます。
- ・将来的に見て1校になってしまうのは、分かりきったこと。早くした方が良いと思う。佐用小学校に統合したらよいと思う。

【C：4校 → 2校（ペア統合）】

- ・いずれ1校とならざるを得ないが とりあえず三日月・南光と佐用・上月の2校とする。ただ地域環境（各地の自然や貴重な歴史・慣習・現生活環境” 通学環境も含め）をも成長過程においては大切なものであり、ただ単に数値だけで”統合ありき”でことを進めるべきではない。
- ・児童数に応じ先ず、三日月小と南光小の統合、令和12年前後、状況に応じ、佐用小、上月小の統合を目指す。地域エリアと通学エリアが広域なため2校体制を意識した統合を考える。

【D：3校 → 1校 + 佐用単独】

- ・推移の数字のみをみれば、佐用小以外の三校を統合するのが、児童数からみて良いのではと思う。
- ・佐用町に1つの学校は無理。上月、南光、三日月を1つにしたらよい。（三日月と南光を1つにしても上月がすぐ減少となるため、3校が1つに中心である南光地区が中程でよいと思われる。

【E：特定2校のみ先行統合（部分統合）】

- ・統合するのであれば、まず三日月小と南光小を統合するのがよい。しかしながらその統合は一時しのぎにしかならないと思われる。小学校のみ考えるのではなく、中学校との関連性も考慮すべきである。
- ・複式学級を避ける。南光小と三日月小を統合する。

【F：上月単独、または上月以外が統合】

- ・最終的には、1校になるが、段階的に進める。まず、上月、南光、三日月を統合し、上月に集約、佐用との2校体制とする。佐用の児童数が減少し、上月に集約できるようになったら、上月に集約する。通学手段は、スクールバスと姫新線を併用する。スクールバスは、現在の運行とし、現在の小学校発着がそれぞれ、播磨徳久駅、三日月駅発着とする。通学定期代は、全額町負担とする。定期代は、年総額500万円程度を見込む。姫新線を通学手段とすることで、減便となっても、姫新線の廃線は免れたい。姫新線がなくなると佐用高校の廃校とも直結するので、一気に子育て世代が転出すると思われる。姫新線は、現状、佐用発着が多いが、全便上月発着とし、授業時間割に応じたダイヤ編成を鉄道会社に要望する。

【G：条件付き・段階統合】

- ・どの小学校と小学校ではなく、通学地域(小学校区)を生徒数や通学距離及び通学方法などを考慮して再編見直ししてはどうか？
- ・児童数が減少しているところを優先して考えたほうが良いと思う。

- ・具体的な統合案とは異なりますが、単純に児童数のみで統合再編を検討するのではなく、第一に統合再編が検討されている学校に通学中または入学予定のお子さんたちの思いを最優先に尊重して統合再編案を検討していただきたいです。現実的に4校のままでは財政的な困難も大きい可能性は想像できますが、統合再編が検討されている学校に通学または入学するお子さんたちや保護者のみなさんの不安が払拭できないほど強いようであれば、教育領域以外の財政の見直し等を行って財源を確保してでも4校を維持することも検討の必要があると思います。

【H：小中一貫／義務教育学校案】

- ・佐用町で義務教育学校を1校
- ・佐用町小・中・高一貫制の総合学校に統合し、充実した教育を目指すべきでは。スポーツ面でも一流選手の排出を目指す佐用町であるべきではと思います。

【I：慎重・現状維持・反対】

- ・南光、三日月を1つにすればと思うが、よくわからない。
- ・最低でも2校を維持！それ以上は減らない対策を！

【J：その他】

- ・2つの学校にして、本人、家族で行きたい学校を自由に選択出来るようにしたら良いと思います。学校名も、未来小学校、希望小学校。
- ・小学校6年間を同じ顔ぶれで過ごすより、小学校を再編成することで児童数が増え、各学年が複数学級となり、一年毎にクラス替えもでき、より多くの友達との交流・知的好奇心の活性化が見込める。
- ・諸外国にあるような複式学級も含め、9年制の学校教育が必要だと思います。

③教職員の意見

(ア)件数表

項目	定義	件数
A	4校 → 1校（場所指定なし）	3
B	4校 → 1校（佐用中心）	0
C	4校 → 2校（ペア統合）	2
D	3校 → 1校 + 佐用単独	1
E	特定2校のみ先行統合（部分統合）	3
F	上月単独、または上月以外が統合	0
G	条件付き・段階統合	6
H	小中一貫／義務教育学校案	0
I	慎重・現状維持・反対	0
J	その他	1
合計		16

(イ)主な意見(寄せられたご意見の中から主なものを抜粋して記載)

【A：4校 → 1校（場所指定なし）】

- ・4つを2つにしてもすぐに減少していくので、1つに統合したほうが混乱が少ないと思う。
- ・将来的には町内を1校に統合すべき。段階的に三日月小、南光小の統合。

【C：4校 → 2校（ペア統合）】

- ・佐用小と上月小、南光小と三日月小の2校に。

【D：3校 → 1校 + 佐用単独】

- ・児童の人数をみて統合するのがよいと感じます。佐用小はそのまま残し、上月小・南光小・三日月小の3校を統合するのが妥当かと感じます（通学面で不都合があるかもしれませんが…）。

【E：特定2校のみ先行統合（部分統合）】

- ・南光小学校と三日月小学校を一つにするのがよいと思う。
- ・児童数が減少している学校を統合する方がよい。三日月小と南光小を1つに。

【G：条件付き・段階統合】

- ・近隣小学校を優先して統合することを考えた方がよい。
- ・減少している学校を優先して統合する。

【J：その他】

- ・人員不足、児童生徒数が減っている今、統合は仕方がない。



Ⅲ. 町内の中学校についての集計・分析結果

町内の中学校についての集計・分析結果(抜粋)

(1)保護者・町民・町立学校教職員(総数 873)

Q. これからの中学校教育において、特に大切だと思われることは何ですか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
基礎的な学力の習得	338	233	74	645
体力の向上と運動に対する意欲の育成	112	67	12	191
児童が安心して利用できる施設設備の環境	89	39	18	146
すべての児童が安心して学べる学校づくり	167	139	49	355
お互いの違いを尊重し、良さを認め合える 子どもの育成	209	158	55	422
集団や社会で行動するための規範意識の育成	184	141	38	363
働くことの意義や職業への理解	68	38	12	118
生涯学習や生涯スポーツへの意欲・関心	32	14	2	48
郷土愛やふるさと意識を育む教育活動の展開	26	49	16	91
家庭や地域との連携の充実	27	32	5	64
わからない	7	4	2	13

〈結果〉

「基礎的な学力の習得 (645 件/74%)」「お互いの違いを尊重し、良さを認め合える子どもの育成 (422 件/48%)」「集団や社会で行動するための規範意識の育成 (363 件/42%)」が上位。小学校と同様の傾向だが、より“学力+社会性”の両立が強調されている。

〈分析〉

- ・ 小学校と同じ傾向だが、中学生特有の課題として規範意識や社会性がより重視。
- ・ 家庭・地域との連携は比較的低い回答となった。

Q. (中学校の)子どもたちのより良い教育環境を考えた時、特に大切にすべきと考えていることは何ですか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
動植物に親しむなど豊かな心を培う周辺の自然環境	37	38	5	80
校舎や体育館など、整備された施設環境	101	40	32	173

児童の健全な育成のための支援と指導の体制が充実している環境	265	206	63	534
仲間たちと切磋琢磨できる環境	199	126	28	353
多様なスポーツや文化活動ができる環境	98	68	9	175
自然災害等に強い施設・設備	36	11	6	53
安全で安心して学校生活を送ることができる環境	219	169	66	454
安全で安心して登下校できる交通環境	110	63	21	194
地域との人のつながり	36	50	17	103
高齢者などとの交流	6	11	30	17
誰でも使いやすい施設・設備	9	4	3	16
町内の他の地域との交流	17	10	2	29
教職員の高い専門性と資質が整った環境	99	97	19	215
わからない	8	7	2	17

〈結果〉

「生徒の健全な育成のための支援と指導の体制が充実している環境 (534 件/61%)」「安全で安心して学校生活を送ることができる環境 (454 件/52%)」「仲間たちと切磋琢磨できる環境 (353 件/40%)」が中心。

〈分析〉

- ・ いじめ防止・不登校対応など、支援体制の拡充が町民の強いニーズ。
- ・ 自然環境や地域交流は優先度としては中位以下。

Q. 町内の中学校の生徒数が減少しています。生徒数の減少への対応として望ましいと思われるものはどれですか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
中学校の統合再編を積極的にすべきである	141	80	11	232
中学校の統合再編を検討すべき時期にきている	182	169	46	397
生徒数が減少しても現行のままでよい	69	44	31	144
わからない	47	42	11	100

〈結果〉

「統合再編を検討すべき時期にきている (397 件/45%)」「統合再編を積極的にすべきである (232 件/27%)」で7割以上が統合に前向き。

〈分析〉

- ・小学校よりも統合容認の割合がやや高い。
- ・中学校は学年ごとの人数がより教育に影響するためと考えられる。

Q. もし中学校が統合再編されたとした場合、特に重視すべきことは何ですか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
適正な生徒数、学級数	237	164	39	440
適正な教職員数	237	154	58	449
通学手段	239	158	38	435
通学距離や通学時間	201	154	68	423
通学時の安全確保	148	88	29	265
地域とのつながり	30	58	18	106
学校の跡地利用	27	36	1	64
通学環境の変換に伴う教育関連経費の増加	39	33	12	84
わからない	18	19	4	41

〈結果〉

回答の中心は「適正な教職員数（449件/51%）」「適正な生徒数・学級数（440件/50%）」「通学手段（435件/50%）」「通学距離や通学時間（423件/48%）」で、小学校とほぼ同様の構造。

〈分析〉

- ・統合に伴う教育環境の向上と通学環境の確保、この2点が最大の論点。

Q. 「通学距離や通学時間」と回答した方にお伺いします。もし統合や再編がおこなわれ、お子さんがスクールバス等での通学で1時間を超えることになった場合、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。（保護者のみの質問）

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
通学時間が長くなっても特に問題はないと考える	4	-	-	4
多少の負担はあるが、やむを得ないと考える	65	-	-	65
子どもへの負担が大きくなるため、できるだけ避けたい	118	-	-	118
通学時間が1時間を超えるのであれば、転校や引っ越しを考えたい	10	-	-	10
わからない	4	-	-	4

〈結果〉

「子どもへの負担が大きくなるため、できるだけ避けたい（118件/27%）」が最多。「多少の負担はあるが、やむを得ない（65件/15%）」も一定数あるが、過半は負担を懸念。

〈分析〉

- ・統合の許容範囲は「通学1時間以内」が大きな目安となる。
- ・遠距離通学への抵抗感が強く、統合計画の中で慎重な検討が必要。

Q. 資料3ページにある「令和7年度以降 中学校 学年別生徒数推移予測」を踏まえて、佐用町全体のことを考えた時や通学距離などを考えた時、現在の4中学校をどのようにすることが望ましいと思われますか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
4校を3校に統合再編をした方が良いと思う	38	32	11	81
4校を2校に統合再編をした方が良いと思う	73	64	11	148
4校を1校に統合再編をした方が良いと思う	167	107	20	294
今のままがよい	79	62	29	170
わからない	82	70	28	180

〈結果〉

「4校を1校に統合再編をした方が良いと思う（294件/34%）」が最も多く、次いで「今のままがよい（170件/19%）」「4校を2校に統合再編をした方が良いと思う（148件/17%）」が続く。

〈分析〉

- ・小学校と比べると「1校への統合」を支持する割合が高い。
- ・学年規模・部活動・進路指導について、中学校は大きく影響することが要因と予測される。

Q. もし中学校が統合再編となった場合、小学校とのかかわりについて、何が必要と思われますか。（保護者と町民のみの質問）

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
教員の交流など、学習指導における中学校との連携の推進	215	165	-	380
学校行事等の小学校との一体的な運営	164	129	-	293

小・中学校における一貫したカリキュラムの設定	197	178	-	375
小・中学校の統合	76	78	-	154
特に必要は感じない	59	18	-	77
わからない	56	44	-	100

〈結果〉

「小・中学校における一貫したカリキュラムの設定（375件/48%）」「教員の交流など、学習指導における中学校との連携の推進（380件/49%）」「学校行事等の小学校との一体的な運営（293件/38%）」が多く、小中連携への期待は小学校とほぼ一致。

〈分析〉

・小中連携への期待は小学校とほぼ一致だが、中学校はより学力を重視する傾向が見られる。

Q. もし中学校が統合再編されずに現行のままとした場合、特に重視すべきことは何ですか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
少人数教育体制の充実	269	205	78	552
複式学級に対応できる教員の研修・充実	152	113	37	302
他校との交流学习の充実	154	111	32	297
安全で安心な学習環境の提供	159	87	38	284
学力の充実	236	144	52	432
授業形態の工夫(オンライン授業等)	75	89	13	177
わからない	32	24	4	60

※兵庫県では中学校の複式学級はありません。

〈結果〉

「少人数教育体制の充実（552件/63%）」が最多。「学力の充実（432件/49%）」「交流学习（297件 34%）」も一定数あり。

〈分析〉

- ・中学はより学力を重視する傾向が見られる。
- ・上位3つの項目は小中同じ結果で、現行維持では教育の質確保が課題である。

(2)児童生徒(総数 515)

Q. あなたの通っている（通う予定）中学校をどう思っていますか。

項目	児童生徒 (件数)
勉強や運動を頑張っている	261
地域の人とのふれあいがある	61
友だちがたくさんいる	189
自然がたくさんある	188
楽しい行事がたくさんある	197
先生と安心して関わることができる	158
校舎や体育館がきれい	73
わからない	77

〈結果〉

「勉強や運動を頑張っている」(261件/51%)が最も多く、「楽しい行事がたくさんある」(197件/38%)、「友だちがたくさんいる」(189件/37%)が続いている。

〈分析〉

中学生は、小学生に比べて学習や活動の充実度を意識して学校を評価している傾向が見られる。一方、「地域の人とのふれあい」が少ないことから、成長とともに学校生活の中心が学校内の人間関係や活動へ移行していることがうかがえる。

Q. 町内の中学校の生徒数が減ってきていますが、これからどうしていけばいいと思いますか。

項目	児童生徒 (件数)
他の学校と一緒にあって、人数が増えた方が良くと思う	145
生徒数が少なくなっている中学校と一緒にする方が良くと思う	148
今のままがよい	152
わからない	70

〈結果〉

「今のままがよい」(152件/30%)、「生徒数が少なくなっている中学校と一緒にする方が良くと思う」(148件/29%)、「他の学校と一緒にあって人数が増えた方が良くと思う」(145件/28%)がほぼ同数となっている。

〈分析〉

中学校段階では意見が拮抗しており、統合に対して慎重な姿勢が見られる。進路や部活動、人間関係への影響を具体的に想定できる年代であることが、この結果に影響していると考えられる。

Q. 町内の中学校の生徒数が減っていますが、もし、何年か先にあなたの通っている（通う予定）中学校が他の中学校と一緒にすることがあれば、賛成ですか、反対ですか。

項目	児童生徒 (件数)
賛成する	302
反対する	108
わからない	105

〈結果〉

「賛成する」（302件/59%）が最も多いものの、「反対する」（108件/21%）、「わからない」（105件/20%）も一定数存在している。

〈分析〉

中学生は統合の必要性を理解しつつも、自身への影響を慎重に考えながら判断していることがうかがえる。判断保留の多さは、具体的な統合後の姿が十分に示されていないことの表れとも考えられる。

Q. あなたの通っている（通う予定）中学校について、より良くなってほしいことは何ですか。

項目	児童生徒 (件数)
友だちがたくさんできるようになってほしい	188
学校行事が活発になってほしい	221
他の地域の中学生ともっと交流がしたい	171
地域の人々との交流を増やしてほしい	114
校舎や体育館などが新しくなってほしい	147
安全で安心して利用できる施設になってほしい	174
わからない	77

〈結果〉

「学校行事が活発になってほしい」（221件/43%）が最も多く、「友だちがたくさんできるようになってほしい」（188件/37%）、「安全で安心して利用できる施設になってほしい」（174件/34%）が続いている。

〈分析〉

中学生においても、学校生活の充実と安心できる環境が重視されている。特に行事の活性化は、学校規模拡大によるメリットとして期待されていると考えられる。

Q.もし町内4校の中学校が他の学校と一緒にいる場合、大切なことは何ですか。

項目	児童生徒 (件数)
クラス替えができる学級数	167
大きな学校行事	235
他の学校との交流	144
安全で安心な学校施設	176
通学距離や通学時間	216
通学時の安全	162
通学の方法	128
わからない	45

〈結果〉

「大きな学校行事」(235件/46%)、「通学距離や通学時間」(216件/42%)、「安全で安心な学校施設」(176件/34%)が上位となっている。

〈分析〉

統合による活動の充実への期待とともに、通学負担や安全対策を重視する現実的な視点が強く表れている。中学生にとっても、日常生活への影響が統合の受け止め方を左右する重要な要素である。

(3) ■■中学校4校に関する自由記述まとめ■■

「4校を数校に統合再編をした方が良い」を選択された方にお伺いします。
あなたの考える統合案があれば、教えてください。

①保護者の意見

(ア)件数表

項目	定義	件数
A	4校 → 1校（場所指定なし）	27
B	4校 → 1校（佐用中心）	6
C	4校 → 2校（ペア統合）	12
D	3校 → 1校 + 佐用単独	7
E	特定2校のみ先行統合（部分統合）	19
F	上月単独、または上月以外が統合	4
G	条件付き・段階統合	15
H	小中一貫／義務教育学校案	4
I	慎重・現状維持・反対	0
J	その他	18
合計		112

(イ)主な意見(寄せられたご意見の中から主なものを抜粋して記載)

【A：4校 → 1校（場所指定なし）】

- ・4校を1つにしたらいいと思う。
- ・2校ずつ統合し、そのまま人数が減らないというのであればいいと思うが、数年後に結局減ったから合併になるんだったら、はじめから4校でいいと思う。

【B：4校 → 1校（佐用中心）】

- ・中心部にある佐用中学校に統合し、他の地域の生徒はスクールバスで通学出来る仕組みにすれば良いと思う。
- ・佐用中学校に統合したら良いと思う。

【C：4校 → 2校（ペア統合）】

- ・中学校においては、1校にするのが望ましいと思うが、通学距離を考慮して、2か所に分散させるのが良いのではないかと思う。
- ・全体の児童数が少なくなっているので2校に統合。スクールバスが必要になってくるが、姫新線やコミバスを利用して通学させる方法も検討したらいいと思う。通学費用はできれば町負担が助かる。

【D：3校 → 1校 + 佐用単独】

- ・上月、三日月、南光を1校にする。
- ・まずは上津中と三日月中は統合したほうがいい。生徒数推移予測通りなら、いずれ上月中も統合したほうがいいと思う。

【E：特定2校のみ先行統合（部分統合）】

- ・距離が遠くなるのは避けたい。近くの上津、三日月が統合ならいいと思う。
- ・通学距離などを考慮したうえで、上津、三日月の中学校から統合を考えて行くといいのではと思う。

【F：上月単独、または上月以外が統合】

- ・築年数の新しい上月中学校の校舎を使うのが一番良いと思います。上月中学校学区以外の生徒が安全に通うことができるようにバス通学を提案します。
- ・上月中が新しいので上月中1つにしたらいいと思う。スクールバスの台数を増やす、小学生と一緒にバスに乗る。

【G：条件付き・段階統合】

- ・生徒数が減少している学校を優先して統合する方がよいと思う。
- ・少ない学校から優先して統合するのがよいと思う。

【H：小中一貫／義務教育学校案】

- ・人数が増え、集団が苦手な子が生きづらくなならないか心配しています。小学校も同様で一つにまとめるのは人数的に仕方ない事かと思いますが、学校に行けない子の学校を小中一貫校として、ひとつ設立してほしいです。上月に教育センターがありますが、運動場でのびのび過ごせたり、給食を、食べられたり、家庭科や音楽の授業、皆がしていること、皆が学んでいることをどの子にもさせてあげてほしいです。
- ・小中一貫の1校に統一。

【J：その他】

- ・資料では児童数が減少していくことが明確なため、今後高校生のように、たつの市や姫路市など他市の学校に通学するように検討してはいかがでしょうか。先生の人員減少対策にもなり、先生の負担も減らせるし、教育関係のコストの削減も図れる。
- ・姫新線の利用がいいと思う。

②町民の意見

(ア)件数表

項目	定義	件数
A	4校 → 1校（場所指定なし）	15
B	4校 → 1校（佐用中心）	7
C	4校 → 2校（ペア統合）	14
D	3校 → 1校 + 佐用単独	8
E	特定2校のみ先行統合（部分統合）	15
F	上月単独、または上月以外が統合	6
G	条件付き・段階統合	14
H	小中一貫／義務教育学校案	4
I	慎重・現状維持・反対	1
J	その他	19
合計		103

(イ)主な意見(寄せられたご意見の中から主なものを抜粋して記載)

【A：4校 → 1校（場所指定なし）】

- ・4校を1校に統合した方が費用の面でも良いと思う。
- ・4校を統合して1校にする。通学距離、時間が大きく負担にならないよう配慮する。

【B：4校 → 1校（佐用中心）】

- ・4校を佐用中にまとめる。
- ・佐用中1校に集約した方が良い。

【C：4校 → 2校（ペア統合）】

- ・上月中と佐用中、上津中と三日月中。

【D：3校 → 1校 + 佐用単独】

- ・佐用中が1つ、上月、上津、三日月中で1つ。
- ・生徒数が減少している学校を優先して統合するほうが良いと思う。ゆくゆくは4校を1校に再編することになると思うが、とりあえずは上月、上津、三日月を統合して佐用と2校にすればよいと思う。

【E：特定2校のみ先行統合（部分統合）】

- ・小学校同様に三日月中と上津中（小学校は南光小）を1つにしたらどうかと思う！！
- ・三日月中学校、上津中学校を統合

【F：上月単独、または上月以外が統合】

- ・最終的どうするかを考えて、段階的に統合を進める。上月中学校が一番新しいので、最終的生徒が校舎に入りきるのなら上月中旬学校校舎とする。姫新線を通学に利用し、姫新線の利用促進をすすめる（JRから上津中が一番近いが、校舎が古い）
- ・4校を1校に。一番新しい上月へ

【G：条件付き・段階統合】

- ・通学手段が整えられるなら、1校に。無理なら、2校に統合できないか。
- ・どの中学校と中学校ではなく、通学地域(小学校区)を生徒数や通学距離及び通学方法などを考慮して再編見直ししてはどうか？

【H：小中一貫／義務教育学校案】

- ・小中一貫校が良いと思う。
- ・まずは、子ども達にとってどうすることがよいのか、保護者や地域だけでなく、是非子ども達の声もきいて欲しいと思います。その上で、統合再編が必要となれば、南光小と三日月小を統合する案もありますが、南光小と上津中を、三日月小と三日月中を小中一貫校にする案も検討してみればよいのではないかと思います。

【I：慎重・現状維持・反対】

- ・距離的に佐用中と上月中は難しいのではと思う。

【J：その他】

- ・通学距離を考えると難しい問題だが、築年数を考えると上津中と三日月中を1つに、また、佐用高校への通学を考えると、佐用中の統合も1つの手。
- ・近くの地域同士で統合

③教職員の意見

(ア)件数表

項目	定義	件数
A	4校 → 1校（場所指定なし）	4
B	4校 → 1校（佐用中心）	0
C	4校 → 2校（ペア統合）	0
D	3校 → 1校 + 佐用単独	0
E	特定2校のみ先行統合（部分統合）	5
F	上月単独、または上月以外が統合	0
G	条件付き・段階統合	8
H	小中一貫／義務教育学校案	0
I	慎重・現状維持・反対	0
J	その他	4
合計		21

(イ)主な意見(寄せられたご意見の中から主なものを抜粋して記載)

【A：4校 → 1校（場所指定なし）】

- ・段階的に統合再編するより、時間がかかっても1度に1つになった方がよいと思う。統合するごとに生徒や教職員にもストレスがかかるのではないか。
- ・4校を1校にすることで、今より充実した環境づくりができると思う

【E：特定2校のみ先行統合（部分統合）】

- ・上津中学校と三日月中学校を一つにするのがよいと思う。
- ・それぞれが、小中学校にできるならその方がいいと思う。それが難しいなら、上津中学校と三日月中学校を1つにするのは、やむを得ないと思う。

【G：条件付き・段階統合】

- ・令和19年度の生徒数予測を見れば、1に統合再編をしてもよいのではないかも思う。しかし、遠方からの通学方法、これまで行われてきた少人数を生かした指導、教員の配置等を鑑みると、多方面の意見を取り入れた慎重な検討が必要である。
- ・減少している学校を優先して統合する。

【J：その他】

- ・現況の教職員不足は深刻である。60代の教員が増加していることや、複数校のかけもち、約3年で佐用町を離れる若手教員などなど。4校が1校になれば充実した教育ができると思う。



IV. その他についての集計・分析結果

IV. その他についての集計・分析結果

(1) 佐用高校との連携について

Q. 佐用町では、「佐用町における教育的課題を解決し、佐用町ならではの教育的価値を創造するために、小中教職員相互の情報共有、児童生徒間の交流、地域との連携等を強化するとともに、義務教育9年間を通して児童生徒の成長を支える体制を整える」ことを目的に、令和3年度より佐用町連携教育プロジェクトを推進し、小学校と中学校の連携、小学校同士の連携、中学校同士の連携、地域との連携を進めており、小・中学校と佐用高校との連携も進めています。

今後、佐用町における一貫した教育のため、町内の小・中学校と佐用高校がさらに連携していくこととなった場合、どのように感じますか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
とても魅力を感じる	104	97	22	223
どちらかというとも魅力を感じる	171	134	45	350
どちらかというとも魅力を感じない	48	34	13	95
魅力を感じない	37	17	3	57
わからない	79	53	16	148

〈結果〉

「とても魅力を感じる (223 件/26%)」「どちらかというとも魅力を感じる (350 件/40%)」と回答した人が多数を占めており、小・中学校から高校までを見通した一貫した教育の推進に対して、全体として肯定的な傾向が見られる。一方で、「わからない (148 件/17%)」とする回答も一定数あり、評価が定まっていない層の存在もうかがえる。

〈分析〉

これまで進めてきた町連携教育プロジェクトの取組が一定程度理解され、評価されているものと考えられる。一方で、今後の具体的な連携内容や児童生徒への効果が十分に共有されていないことから、取組の目的や成果を分かりやすく示すことが、さらなる理解促進につながると考えられる。

Q. 「魅力を感じる」と回答された方にお伺いします。どのような魅力や可能性を感じますか。

項目	保護者 (件数)	町民 (件数)	教職員 (件数)	合計 (件数)
高校生との交流を通じて、小中学生の学習意欲が高まる	143	130	32	305
地域課題をテーマにした探究学習ができる	72	64	30	166
高校の専門的な知識や設備を見ることができ、活用できる	88	83	16	187

将来の進路や職業を考えるきっかけになる	180	124	32	336
地域全体で子どもを育てる意識が高まる	100	12	32	144

〈結果〉

「将来の進路や職業を考えるきっかけになる（336件/30%）」「高校生との交流を通じて学習意欲が高まる（305件/27%）」といった回答が多く、進路意識の形成や学習意欲の向上に関する項目が上位を占めている。また、「地域全体で子どもを育てる意識が高まる（144件/13%）」とする回答も一定数見られる。

〈分析〉

小・中学校と高校の連携には、単なる学校間交流にとどまらず、将来を見据えた学びや地域と一体となった人材育成への期待が大きいことが読み取れる。高校の専門性や地域資源を生かした学習活動は、町ならではの教育的価値の創造につながる可能性が高いと考えられる。

(2) ■■佐用高校×小中学校連携アイデアに関する自由記述まとめ■■

町内の小・中学校と佐用高校との連携について、具体的なアイデアや活動例があれば、自由にご記入ください。

〈記載順〉

- ① 定期交流イベント・合同行事（文化祭・体育祭・音楽会・キャンプ等）
- ② 出前授業・チューター・授業参加（高校生→小中／実験・授業見学含む）
- ③ 専門学科連携・体験学習（農業・畜産・家政・調理・販売等）
- ④ 部活動・クラブ連携（合同練習・合同チーム等）
- ⑤ 進路・高校体験・オープンスクール（見学・体験・探究発表）
- ⑥ カリキュラム連携・一貫教育（小中高の系統化・探究テーマ統一）
- ⑦ 地域・企業・地域課題プロジェクト（特産・空き家・イベント・ボランティア等）
- ⑧ 国際・語学・留学・多言語連携（日本語学校連携・交換留学等）
- ⑨ 慎重・不要・懸念（必要性なし・悪影響・高校の質等）
- ⑩ その他（交通・拠点/統合・私学誘致・寮・ICT/リモート・制度提案等）

①保護者の自由記述（87人から寄せられたご意見等の中から主なものを抜粋して記載）

【定期交流イベント・合同行事（文化祭・体育祭・音楽会・キャンプ等）】

- ・定期的な交流イベント。主体を高校生に、下の子達のお兄さん、お姉さんになれるような交流。
- ・佐用高校と一緒に文化祭をしたり、地域のイベントに参加したりなど、いろいろな経験を積めたらいいなと思います。

【出前授業・チューター・授業参加（高校生→小中／実験・授業見学含む）】

- ・小学生や中学生に向けての授業を高校生が計画、実施する。授業を受けた小中学生が、その感想を高校生に向けてプレゼンする。
- ・教育的課題や教育的価値を創造する取り組みについての資料も入れて欲しかったです。小中学生が町の未来を語りあうフォーラム、町の課題解決のワークショップ、高校生の探究活動の成果報告を小中学生にプレゼン、など。

【専門学科連携・体験学習（農業・畜産・家政・調理・販売等）】

- ・ミシンの学習で、佐用高校には家政科があるので、そちらと連携がとれないだろうか？中学校と小学校でひまわり栽培の活動があるので、農業科と関わることはできないだろうか？スクールボランティアを高校生に依頼するのもありかもしれません。
- ・農業科学科の生徒と一緒に学校内の花壇の手入れや学校で栽培している野菜と一緒に管理。中学3年生が高校に行って授業や実習、部活などを1日高校体験。

【部活動・クラブ連携（合同練習・合同チーム等）】

- ・中学校と高校の部活の交流

【進路・高校体験・オープンスクール（見学・体験・探究発表）】

- ・地域のことを一緒に学んだり、職業などにつながる事を体験する機会があればいいと思う。
- ・具体案ではないですが、地域の優秀な生徒が佐用高校に残り、高校を活性化する事により、他地域からの優秀な人材も佐用高校に入学するようになればいいと思う。小中学生が高校の授業見学に行くなどしてはどうか。座学だけでなく、小学生は実習見学など。

【カリキュラム連携・一貫教育（小中高の系統化・探究テーマ統一）】

- ・宍粟市の千種高校、中学校の様に佐用町も佐用高校と中学校を中高一貫校にすれば良い。
- ・小中高一貫のカリキュラムを作る。佐用小学校の校舎を、佐用小中学校として町内の小中学生が全員一緒に学べる学校に改築する。佐用高校にも隣接しているので、連携は取りやすいと思う。ただ、現状は佐用高校の生徒の多くは他市町から学力の低い子が通学している状況だと思うので、どの程度連携して効果があるのかはわからない。

【地域・企業・地域課題プロジェクト（特産・空き家・イベント・ボランティア等）】

- ・小中学校と高校の連携の必要性が分からない。他地域から通学している高校生にとっては、魅力がない。

【国際・語学・留学・多言語連携（日本語学校連携・交換留学等）】

- ・佐用高校と連携するメリットを感じない。それであればアメリカやカナダなどの英語圏の学校と提携し、早期から交換留学がなされる方がよっぽど魅力を感じる。
- ・佐用高校は廃校になっても構わないが、郡外に通学するバスの送迎や、電車代の補助をしてもらったら良いかと思います。日本語学校の生徒が通学する為にバスを運行しているのと同じように。

【慎重・不要・懸念（必要性なし・悪影響・高校の質等）】

- ・高校進学は個々の自由だと思うので特に必要ないと感じます。それよりも少子化問題を早急に考えていただきたいです。
- ・小学生にとっては年上と関われる魅力を感じる気がするが、中高校生は魅力を感じるのか否か疑問に思う。大人が思う魅力を子どもたちに押し付ける形になるのは良くないなあと思うので、高校生や中学生にも聞いて欲しい。

【その他（交通・拠点/統合・大学誘致・寮・ICT/リモート・制度提案等）】

- ・私学にして立命館高校を誘致してはどうか。滋賀県の守山市では底辺校が立命館高校になって人気校になった実例がある

②町民の自由記述（62人から寄せられたご意見等の中から主なものを抜粋して記載）

【定期交流イベント・合同行事（文化祭・体育祭・音楽会・キャンプ等）】

- ・老若男女校区内住民自由参加型の運動、クイズ等 etc…年一度くらいの大イベントがあっても佐用町の活力活性化につながるように思います。
- ・小、中、高の連携は難しいと思います。カリキュラムの問題で大変だと思う。運動会又は文化祭などの行事なら良いかな？

【出前授業・チューター・授業参加（高校生→小中／実験・授業見学含む）】

- ・教員相互の交流（授業担当・意見交換など）により、教員が視野拡大と授業力をアップさせる
- ・小・中・高の生徒にテーマを与え、テーマが類似した生徒がグループを作り、意見交換をしながら、考えを深化させる。

【専門学科連携・体験学習（農業・畜産・家政・調理・販売等）】

- ・今の子は塾に通う子が多く見かけ、学校での勉強は基礎的な知識でしか学べてないイメージがあります。ですので、学校では小、中、高とも社会経験を優先に自分たちで育てた野菜や果物を使ってカフェやレストランを開き、生徒たちが食材を調理、販売をします。地元の方はもちろん、他県から訪れたお客様との交流、そして、社会科見学やオンラインでの学びで経験を積み、子供たちの将来にも繋がっていただけると私事ですが理想である教育環境です。
- ・花や野菜の栽培、スポーツ大会。

【部活動・クラブ連携（合同練習・合同チーム等）】

- ・高校生との交流を通じて、小中学生達は色々な考えや活動を学べるかと思われまます。現代の高校生は、我々の時代より社会とのかかわりを大事にしていますので、行事で交流するとかスポーツを通して指導したりはできないか。
- ・小・中・高一貫制の教育を目指し、将来の夢に向かって進む方向性を自身で見つけて、前へ進む方向性の勉学にすべきでは。学力、スポーツ、専門職と方向性の進路選択のできる教育をお願いします。

【進路・高校体験・オープンスクール（見学・体験・探究発表）】

- ・中学生が年に何回か高校体験をする。

- ・町内の高校は地域にとって重要な存在だと思いますが、子どもたちの視野や可能性を広げるため、進路選択の可能性を増やすために、町外の高校（進学校や異なる特色の高校）とも幅広く交流できる仕組みを希望します。町内で暮らす子どもたちにとって、身近な高校だけでなく、もっと広い選択肢や価値観と触れ合う機会を与えることが大切だと感じています。「世の中は広くて、さまざまな環境や学生、人がいる」という感覚を育んでもらえれば嬉しいです。

【カリキュラム連携・一貫教育（小中高の系統化・探究テーマ統一）】

- ・県の方針で高校の統合も進んでいるところであると思う。佐用高校も「まな板の上の鯉」にならないように、中高一貫校を考えるべきではと思っています。
- ・中学と高校の一貫校は良く聞きますが、小・中・高の連携は今までに聞いたことがない。レベルの高い先生に来てもらい、洞察力が鋭い先生が好ましい。生徒それぞれの特徴を見抜き、生徒が将来何をやりたいのかを日頃からの教育や言動でその生徒を見守り、その生徒の特徴を伸ばしてくれるような先生に来てほしい。私は父に「みんな大学、大学と言うけれど、人間いくら勉強ができてても社会の大学を出ないとダメだ」と良く言われました。もう30年も40年も前から少子高齢化になる事はわかっており、その当時からなぜ対策をとらなかったのか。一口で言うと佐用はつまらない。今の若い子達は太子や姫路、津山の方へ仕事が終わったら行っている。

【地域・企業・地域課題プロジェクト（特産・空き家・イベント・ボランティア等）】

- ・小学生には、まだ将来のことについては実感を持ってないと思うが、中学生位になると少しはわかってくると思える。高校の専門的な知識や学習を通して少しでも将来の自分が進む道と考えられることが出来ると思う。高校との交流を増やして将来の自分に役立つ学習の役に立ててほしい。

【国際・語学・留学・多言語連携（日本語学校連携・ESL・交換留学等）】

- ・語学の向上につながりができると思う。特に英語力の向上。

【慎重・不要・懸念（必要性なし・悪影響・高校の質等）】

- ・小、中と高校は別で考えるべきである。連携すべきではない。
- ・連携する事による悪影響も考慮されたい。

【その他（交通・拠点/統合・私学誘致・寮・ICT/リモート・制度提案等）】

- ・連携ではなく小・中・高を統合すればよい。社会で通用する人を育成することが重要と思う。
- ・小学、中学を統合して通学のあり方を姫新線、智頭線、スクールバス、コミュニティバスなど佐用高校と連携して考えれば良い。

③教職員の自由記述（17人から寄せられたご意見等の中から主なものを抜粋して記載）

【出前授業・チューター・授業参加（高校生→小中／実験・授業見学含む）】

- ・高校の施設の見学
- ・高校生が勉強等を通して、チューターとしてかかわるのはと？と、思う。

【専門学科連携・体験学習（農業・畜産・家政・調理・販売等）】

- ・専門学科における体験学習が児童生徒の将来に役立つ
- ・農業分野での見学等

【進路・高校体験・オープンスクール（見学・体験・探究発表）】

- ・継続して佐用高校のよさを発信するしかないと感じています。進路については各個人が決めるものですので、他と比較して魅力が無ければ人が集まらないのは仕方ないと感じています。交通の面では、佐用町の生徒にはアドバンテージがあると思います。時間的には大変ですが…各学校に出向いて直接生徒同士で交流があるといいかもしれません。
- ・今年度から中高のオープンスクールに互いの職員が参加して交流することは意義があると思う。互いの学校を知ることが大切だと思う。

【カリキュラム連携・一貫教育（小中高の系統化・探究テーマ統一）】

- ・総合的な学習の時間や探究の時間のテーマ(地域)を統一し、それぞれの学校での活動を交流し、次の課題を設定する場を設定する。その際、交流するだけではなく、高校生から専門的な知識を得たり、小中学生から率直な意見も出し合える場とする。その活動の成果は、町の大人に向けて発信し、地域全体で佐用を考える活動とする。自然学校のプログラムに佐用高校との交流を取り入れる。
- ・高校の専門的な知識や設備を小学校や中学校段階から触れることで、児童生徒の意欲が高まると感じる。また、人口減少等の地域課題に対して小・中・高が連携して課題解決のための探究活動を取り入れるのも良い連携になるのではないかと感じた。

【地域・企業・地域課題プロジェクト（特産・空き家・イベント・ボランティア等）】

- ・希望者が減っている佐用高校の魅力を発信しようと、懸命に佐用高校の先生方が取り組まれていると感じる。各校で行っている総合学習との連携が高校ともできるとよいのではないかと感じる。ただし、どの中学校もそれなりに高校と距離が離れているので、どれだけの連携ができるのかという心配はある。単発で終わらず、継続的な連携方法や、学びの継続性で考えられるとよいように思う。例えば、小中で連携しているひまわり栽培のあと、ひまわりからの産物を使って高校が何かをする、中学校が行っている劇に高校が衣装や大道具等に関わる、など。

【慎重・不要・懸念（必要性なし・悪影響・高校の質等）】

- ・特になし。残念ながら現状、佐用高校の評判が悪い。生徒の生活態度、規律等乱れていると耳にします。わが子も地元ではあるが、進学先として考えていない。連携を考えるなら、まずは佐用高校の質を高めたり、魅力を感じる何かが確立されてから、それに準ずる連携を検討していく方が良い。

(3) ■■■町立学校教職員アンケートの自由記述について■■■

(町立学校教職員のための自由記述)

令和 11 年度頃からは南光小学校や三日月小学校でも 1 学級が複式学級となる可能性があります。複式学級に対して、どのように思いますか。ご意見があればお聞かせください。

〈記載順〉

- ①【期待・ポジティブな意見】
- ②【懸念・ネガティブな意見】
- ③【条件・提案としての意見】

①小学校教員の声(34 人の方から寄せられたご意見等の中から主なものを抜粋して記載)

【期待・ポジティブな意見】

- ・複式学級が必ずしもよくない教育環境だとは思わない。異学年交流が普段からできるよさを生かすこと、と同時により多様な人との関わりを考えた教育活動ができればと考える。
- ・少人数だからこそ持ちやすい地域とのつながり、少人数だからこそできる丁寧な指導など、少人数だからこそできることはたくさんあると思います。これ以上統合せずに、地域の学校として存続し、子ども達に故郷の楽しい思い出をたくさん持てたら、大人になっても佐用町に残りたいという気持ちになると思います。
- ・複式学級となることで、子どもたちの自立性が育つことが期待できます。旧の江川小学校、三河小学校、幕山小学校からは、優秀な人材が輩出されています。また、古くは、旧石井小学校、平福小学校、長谷小学校などもありました。平成の小学校統合の際には、複式学級に対する保護者の偏見から急速に小学校の統合が進められたが、かえって過疎化を加速させたあの経験から大いに反省すべきだと思います。
- ・複式学級で、成果を上げている学校は全国各地にある。その良さを取り入れて、佐用町独自の学校を創造していくべき。
- ・複式学級となることも一つの学びの形として問題ない。逆に複式学級になることが悪いのか？と思うような質問項目として挙げられていることに疑問を感じる。
- ・「複式学級＝良くない」ということはない。指導の工夫、集団活動をどう体験させるかが必要となる。

【懸念・ネガティブな意見】

- ・学年に応じて学ぶ内容に違いがあるため、複式を解消し、それぞれの学年に担任をおけることが望ましいと考えるが、十分な人員が確保されることが大前提であると思う。各学年の児童数が減り、担任として指導する業務量などの負担は少ないと思うが、クラス数が減り配置される職員の数も減ることにより、それぞれが担う校務分掌は多く、多岐にわたり、職員の負荷は大きくなるのではないかと不安を感じる。

- ・複式になると学年をまたがったの指導になるため、基礎学力を定着させる指導が難しいように思われる。一人の教師が1時間に2学年にまたがったの教科指導は、人数の多い少ないにかかわらず教材研究などの負担が懸念される。少人数になっても、学年によって成長過程は異なるので複式学級を撤廃し、単学級で未来の宝である子どもの教育に力を入れるべきであると考えている。
- ・複式学級を経験した先生から大変だと聞いたことがある。
- ・複式学級の指導技術や複式学級がある学校の運営のノウハウを持ち得ていないことが気がかりである。
- ・異学年交流等ができやすく、他学年にわたって仲を深められる学校になるとは思いますが、教科等の指導は複雑化し、教員の負担も増えると感じる。また、人間関係が固定化されるため、環境に馴染めなかった児童は小学校と中学校の9年間変わらぬ環境にいることになるのが問題だと思う。
- ・学習面でそれぞれの学年のカリキュラム履修の時間の確保が難しい。
- ・現代の子どもたちの様子は多種多様な状況です。同学年でさえ、通常学級に在籍しているが特別支援学級や通級指導レベルの子どもも多くおり、指導に苦慮しているのが現状です。義務教育において、全員が一定水準の学力や生活力を身に付けることは教職員の使命であり、単学年以上の指導力や学級運営が求められるのではないかと思います。今の佐用町では、各学校で縦割りの学校活動も多くあり、複式にすることへのメリットは少なく感じます。

【条件・提案としての意見】

- ・これまでも、複式学級になる児童数の時があったが、加配教員等を配置し、複式学級になることをできるかぎり避けてきたと思う。複式学級解消のために、統合再編ありきのように感じるが、複式学級解消のために、できるかぎり統合再編ではなく、他の方法を考えてほしい。
- ・可能な範囲で加配等によって複式学級を解消する。不可能な場合は、複式学級における指導を研究することができる体制を町として確立する。
- ・特別支援学級で授業を進めることができているので、基礎学力の習得という面では、複式学級も十分可能であると思う。ただ、話し合いなどの場面を考えると学校を統合し、少しでも1学年の人数が多い方がよい学びになるのではないかと考える。

②中学校教員の声(16人の方から寄せられたご意見等の中から主なものを抜粋して記載)

【期待・ポジティブな意見】

- ・複式学級にしかできない良さもあると思います。
- ・過去にも、小学校が合併する前に複式学級になる予定だった学年があったが、加配の活用を行うことで、児童の学びに応じたカリキュラムを組んでおられた。児童の確かな学びを保障するための手立てはあると思う。質問が、そういった考えを排除しているように思い、誘導性を感じる。

- ・早めの準備が大切だと思います。複式のマイナス面を見るだけでなくプラス面もみながら総合的に対応していくことが大切だと思います。

【懸念・ネガティブな意見】

- ・児童生徒の学年が異なるので、より指導の仕方が難しくなる可能性がある。
- ・学年に応じた教育があると考えるのであまり望ましくない。
- ・数学科に関しては、系統的に順序立てて学ぶので指導面では難しい部分も多いと感じます。完全に学年別でわけて指導するのであれば、教師の負担も増えるのではないかと考えられます。前後の学年の学習内容を少しでも把握しながら学習出来たらつながりが理解できて楽しい部分もあると思いますが…
- ・複式学級を担当される先生の負担が大きくなるのではないかと。児童1人1人のケアが十分にできるか。

【条件・提案としての意見】

- ・学力保証がされていれば問題ないと思います。
- ・学力の保証も大切にして学級作りを行うことが必要になる。担任だけでなくもう一名の教員を配置する等、複数で関わるようにする。
- ・複式のよさもあるが、児童の希望を優先すべきだと思う。
- ・最終的な手段としては必要だと思うが、できる限り回避した方がよいと考えます。デメリットばかりではないですが、この先の時代を生きていく子どもたちのためには、丁寧に学習が進められる学年ごとの学級が望ましいと思います。さらに言うと、できるならば統合して、限界まで学年ごとに進めながら、多様性を担保していくことがよいと思います。また、教職員の働き方からも、複式学級だと負担が増えることが予想されるので、その点からも望ましくはないと考えます。佐用郡のような山間部で子どももいない地域では、何かを取捨選択しなければならないと思います。通学時間がかかるのは致し方ないと思います。

(4) ■■その他自由記述について■■

佐用町の子どもたちのより良い教育環境を考えるうえで、ご意見があれば自由にお書きください。その他にもご意見がございましたら、自由にお書きください。

〈記載順〉

- ①統合について
- ②新たな統合について
- ③教育施策について
- ④校舎、施設について
- ⑤登下校について
- ⑥部活動について
- ⑦町の施策について
- ⑧地域との連携について
- ⑨佐用高校について
- ⑩その他

① 保護者の主な意見（133人から寄せられたご意見等の中から主なものを抜粋して記載）

【統合について】

- ・児童数が少ないのは、止められない現実だが、これまでの佐用町の教育は他地域に負けないくらい素晴らしいと思う。優秀な生徒も多いが、外に出てしまうのが、現状である。地域愛を育みながら、地域に残りたいと思う子どもたちが増えるよう、教育面での魅力発信や、佐用町の素晴らしさを子どもたちに伝えていけるよう、地域学習をするなど、大人たち1人1人が子どもたちにできる事を本気でやる必要がある。行政、教育を本当にしっかりやっていただきたい。また、統合がすすむが、やはり地域に活気がなくなり、過疎化がさらに進む現状は食い止めたい。統合ありきではなく、本当に1校1校残せないかを真剣に考えてほしい。子どものこと、地域のことをしっかり考えてほしい。
- ・学校あたり的人数が少なく、保育園、小学校、中学校と限られた人間関係で過ごすことで、新たな人間関係を築く力を養う機会が損なわれていることを心配しています。他校などとの交流も大切ですが、やはり適正な人数が確保され、より多様性への理解や社会性を身に付けられる環境が大切だと思います。そのためにも早急な統合への協議が必要だと思います。

【新たな統合について】

- ・義務教育学校の検討については、小・中学の体制が混在することに大きな不安がある。小学生は心身の発達が著しく、その機微な変化を理解した小学校教員のきめ細やかな指導と見守りが、健全な成長には不可欠だと思う。実際、小学校の教員の方々のご対応には安心感がある。一方、中学校においては、社会進出を念頭に置いた集団での規律や管理体制を重視する指導文化が強いと感じられる。中学校教員は教科指導の専門性の高さが求められ、他方、子どもの心身の変化に対する指導やフォローについては弱く感じ、親として不安な部分は多い。中学生期では、子ども自身が家庭や友人と対話してそれを補い成長する機会とも捉えられるが、小学校期の子どもたちに対しては、中学校が持つ文化や専門性が抑制的に働き、一人ひとりに合った適切な成長支援が行き届かなくなるのではないかと。所持免許の問題だけでなく、役割や文化風土の違いについての考慮をお願いしたい。
- ・小中一貫校などの思い切った対応も必要と思う。

【教育施策について】

- ・支援級で学ぶ教科が国語や算数だけなのが不安です。社会科や理科など専門的な教科は高学年になるにつれて複雑になり、通常級と一緒に受けるとなると理解が難しくついていけないのではないかと思います。専門的な教科を支援級でも学べる環境を作って頂きたいです。
- ・自然や地域と触れ合えるような活動を通して、良い点だけでなく抱えている問題点も考えるような教育。普遍的な教育でなく、日本や世界の先端をいくような、教育(例えばAIやプログラミングなど学ぶなど)実際に見たり聞いたり動いたり、五感を使うような体験学習型の教育。

【校舎、施設について】

- ・体育館にクーラーを設置してください。各校に監視カメラを設置してください。

- ・体力のつきだした小学校高学年や中学生が安心して元気いっぱいボールを使ったり賑やかにして自由に遊べる場所がない。町民の方に怒られたりする事や学校へ注意の連絡がはいたりする事もあり、親も子供にボールを使ったりするなどと言わざるをえない。今時の子はスマホやゲームばかりでと言われがちだが、親も共働きが多く自由に集る場所がないためオンラインで繋がって友達と遊んだりも多くなる。もちろん目につくような事をしてしまっている子供達が悪い場面も多々ある事も理解しているし、いろんな方がいるのもわかっているが子育てをしてきて地域や大人が子どもの遊びを邪魔しているように感じる。学校の運動場もあまり自由に使えないし公園もうるさがる。夏場や冬場や外で遊べない時ももちろんあるが気候の良い季節など皆で外で遠慮なく元気に遊べる環境からも学べる事はたくさんあると思うのでそんな場所を考えてやって欲しいと願います。

【登下校について】

- ・佐用町内には産婦人科が無いので、この町で子どもを産む事は出来ません。子どもを産める体制の無い町では子どもは増えないと思います。それは小学生中学校にも通じる事だと思います。町民の減少について、新たに移住する方達は保育所や小学校の数、場所はとても重要です。保育所の統合や小中学校の統合は運営側からすれば合理的なのかもしれませんが、教育の選択肢が少ない町に魅力は無く、町民数の縮小の一方だと思います。通学時間について、現在往復1時間弱を通学に費やしているので、9年間にすると…と考えると、選択肢が無い事はとても歯痒い思いです。通学バスは大変ありがたく利用させて頂いていますが、もし歩いて通学が出来れば、児童の体力向上や、登校班などがあれば集団行動でのふるまいを見につけたり、年の違う児童同士のコミュニケーションは自然と生まれると思います。少人数ならではの手厚い教育が魅力になれば良いなと思います。

【部活動について】

- ・中学の部活について。地域の活動を巻き込みながら、部活の種類を増やして欲しい。コーラス、算盤、将棋等。統合しないなら、部活だけでも学区関係なく、選択できるようにして欲しい。

【町の施策について】

- ・我が子を育てて感じたことは、とにかくこの町は閉鎖的で多様性を認め合わないところが大きい。我が子も経験したが、いじめ問題が起きたときにそれを感じた。特に大人、教員のそういう部分が子どもたちに多大な影響を与え、長年この町の空気をつくってきているのだと思う。それが若い移住者を遠ざける大きな要因ともなっていることに教育者が気づいて改善していかないと、この町の過疎化は防ぎようがないと考える。
- ・佐用町に留めるのではなく、世界を見据えた、どこに行っても自信を持って生きていける人材の教育を目指してほしいです。それが佐用町から出て就業した時に、佐用町での教育のお陰と覚えてもらえたらその結果がふるさと納税に繋がったり、Uターンしてから起業など、佐用町にとってもメリットが期待できると思います。小中9年間で今後自分たちが生きていく日本、世界の未来を感じられる教育を期待します。

【地域との連携について】

- ・少人数故に、地域や学校で目が届き過ぎ、子供らしい伸びやかさ、表現力等が見受けにくいように感じる。また、地域について学ぶ機会が少ないからか、大人になると町外に住む選択をしがちと思う。今はどこに居ても世界と繋がれる時代なので、小さい内から町内外と交流し、生まれ育った地域を大切にしながらも、多様性に対応できる教育をしていただきたいと願っています。

【佐用高校について】

- ・地域に高校を残しておきたいのであれば佐用高校に通う子は小中が通学で使うスクールバスでの登校が可能になるとかすると通学手段に困らなくていいかと思う。佐用町に住んでいるからこそ通う利点がある！などの政策があればいいと思う。そして教育者や保護者の中にも佐用高校は…。という考えを無くせるような環境を作ればいいと思う。

【その他】

- ・教育委員会の運営の内容や、そもそもの論点や問題に対する解決策にズレを感じる。教育委員会がもう少し地域に密着し、まともな意見に耳を傾けて、理解することが重要。教育委員会の設けるルールや問題の解決案がその場しのぎに過ぎない。
- ・スクールカウンセラー以外に発達障害の子供など、LD など様々な対応ができる専門の先生を1人学校にいてほしい。田舎なので専門的な相談者がいてくれると助かります。

②町民の主な意見 (86人から寄せられたご意見等の中から主なものを抜粋して記載)

【統合について】

- ・隣の岡山県や北海道の一貫教育、コミュニティスクール等、成功例は有益な情報となるのではないかと。そして、人間教育、品格教育に力を注いで取り組んでおられる面を是非参考にさせていただきたい。お互いを尊重し合い、人権意識を高めることで、誰にとっても居心地のよい学校、安心して楽しく通える学校作りに取り組んでいただきたいと思う。統合して拡大するばかりでなく、大勢の中に入っていくにくい不登校気味の児童生徒には、閉校した学校(の一部)を分校として活用する方が、安心して通いやすい面があるかも知れない。狭くて居心地のよいサイズの学校もあるので、大きいばかりに目を向けるのではなく、多様な背景を持っている多様な子ども達に合うよう、それぞれに必要な居場所作りをすることも考えてよいのではないだろうかと思う。
- ・独自性のある教育カリキュラムを採用し「教育移住者」を取り込める、そんな学校経営を目指して欲しい。前回の小学校合併時に、複式学級を避けることを前提に話し合いが進められたと聞いた。しかし、複式学級にもメリットはあるはず。その例として「イエナプランスクール」などが挙げられる。複式学級を避けるために合併を繰り返すのではなく、複式学級(または自然豊かな場所にある小規模学校)でしか得られない要素を、地域の特権としてアピールして欲しい。地理的に不利な佐用町ではあるが、他にはない魅力が佐用町立学校にはある、だから、子どもを育てるならぜひとも佐用町に移住したい！と思ってもらえるような、そんな学校を作って欲しい。

【新たな統合について】

- ・児童生徒の推移表からも減少の一途です。安易に統合を考えず、佐用町ならではの教育を目指していただけたらと思います。(現状のままを希望します。) 2校を1校に、3校を1校にと考えず、保小中高の一貫性で4校を1校にする案を考えます。

【教育施策について】

- ・我が子も、佐用町の大変良い環境の中で、教育して頂き、大変感謝しています。先生方の努力はもちろん、地域の人の温かさ、自然の美しさなど、良い環境はすでに整っています。今後は、先生方が働きやすい環境を整える事が最重要課題だと思います。また、不登校の子どもが、増加傾向にあり、どんな形からでも、学習できるシステムが必要だと思います。
- ・人格形成、人間形成をしっかりと育ててください。

【校舎、施設について】

- ・今の子供たちで元気で外で遊んでいる姿をあまり見ることはありません。たぶんゲームなど家の中でやっている子が多いと思います。元気で体を動かしてできる施設や興味ある環境を整えてあげることが大事です。
- ・不登校に対するサポート施設や体制を考える。

【登下校について】

- ・今回のアンケートの趣旨が分かりません。回答した割合を示すことが、何の役に立つのでしょうか。佐用町がどうしたいのか、最初に教育の目標を示すべきです。教育を大切にするため、佐用町の教育費に占める割合を今後どれだけ多くするかだと思います。一人一人を大切にす究極の方法は、子ども一人に対して一人の教師を配置することでしょうが、教育費は膨大になります。その基準が適正規模や複式学級の解消という言葉や数値にあると思います。しかし、適正規模以下の学校や複式学級定員を下回る条件下での教育が低下を招くという根拠はありません。子どもたちの自己肯定感を持たせ、学校、地域、佐用町を愛する教育をするためには、子どもの数が少なくてもできるはずで、一人でも多く佐用町に残ってくれる子どもを育てていくべきだと思います。例えば、今回早く統廃合をした後、その次に来るのは、同様の考えのもと学校をすべて廃校にし、他市町の学校に通学させるという教育放棄の事態になるのではないのでしょうか。極端かも知れませんが、子どもが最後の一人になるまで、町も地域住民も学校教職員も学校存続に向けて努力するという姿勢が大切ではないでしょうか。

【部活動について】

- ・難しい。通学時間が大きくなるので、学習・スポーツ・文化活動ができる時間が無くなるが、統合もやむなし。
- ・中学校の部活動は早期に地域移行すべき。

【町の施策について】

- ・佐用小中学生の人数の調査の結果が10年で約200人減少というのは変えようのない現実です。明治維新から今年で157年、先進国フランスと日本では政府政策、国民気質が違い、模倣だけでは意味は薄いでしょうが、フランスは「少子化」を克服した数少ない国の一つです。日本政府関係も子供の出生、保育、若き家庭に対して手厚い保護を与えているようですが、保護だけでは進展しない何らかの原因があるようです。小中高校一貫の話の前に保育体制や、人間同士の会話を失わせる「メール」世界が幅を利かせる社会体制、余りにも個人秘守をする閉鎖体制を一考する必要があります。小学校入学前の保育とそれを取り巻く世間というものから反省検討すべきと感ずます。
- ・子どもが増えることが出来ることは何か、という原点を考えるべきであると思う。短期間でできることではないので早く手を打つことを望みます。人を増やすことは難しい事です。行政のこれからを楽しみにしています。

【地域との連携について】

- ・佐用町の将来を考えるためには、もっと長期の視点で少子化をとらえる事。これ以上減らす事が許されない児童数ラインを見出し、佐用町と町民が共有した上で施策を実施し続けることが重要と考えます。①このままで行けば、佐用町の少子化の底はどこになるのか？②佐用町の教育を維持し向上させる為の、これ以上減らす事が許されない児童数ラインはどこになるのか？③一回、一切の制約を全て取り払い、教育の原点に立ち返り考える事が必要では？
- ・最近、子ども、親、地域とのつながりが少なく、集落でも顔を合わすことが少なくなっている。行事も少なくなっているの仕方ないのかもしれないが、子どもから大人、老人と交流してほしい。我家だけ良ければという考え方はダメ。親の姿を見て子どもは育つではないが、親子ともに何事に対しても（勉強、作業、遊び）参加し、ともに動けば子供達も自然と見て考え良い事悪い事も学び成長していくのではと思うのですが。

【佐用高校について】

- ・佐用高校が校区再編により廃校にならないように。
- ・少子化が急激にすすみ、子どもたちが激減し、地域の活力が減退しています。義務教育が終わると佐用町から他地域への流出が始まります。（中学生から流出もある）特に佐用高校へ入学しても、卒業後は他地域の大学や働く場所を求めて流出してしまいます。小学生の時から郷土愛を育て地域を愛する子供たちに育て、少し手も残ってくれる教育を進めてもらいたい。働く場所はそれぞれが考えれば、それなりにあります。超一流企業はなくても、通勤できる範囲には働ける場所はあると思います。企業を誘致しても若い労働力が佐用にはありません。佐用に残ってくれる教育とすすめてはどうですか。親が少しでも優秀な高校や大学を目指せば目指すほど佐用には残ってくれません。学力よりも佐用を愛し、地域を大切にしてくれる子どもたちと育てたいと考えます。

【その他】

- ・人生の中で学習能力も必要不可欠だとは思われますが、今この時代を”たくましく生きる力”が、私は大切だと思います。時代の流れの速さに飲み込まれない様、本当にこれだ、私はこの仕事で生きていくんだと思う、強い心と気持ちを持てる子どもたちになってくれることを期待しております。
- ・「現代社会を生きる」子どもたちにとって、学校教育は個性や価値観を育み、社会と関わる力を養う場であってほしい。児童生徒数の減少は確かに課題だが、単に「数の確保」が最善かどうか、問い直す必要がある。「学校とは何か」という根本的な問いも含め、教育の在り方を見つめ直すことが求められている。佐用の自然環境は、即ち優れた教育資源である。社会変化に「対応する力」だけでなく、「向き合う力」を育てる教育こそが、今後の使命ではないだろうか。

③教職員の主な意見 (35人から寄せられたご意見等の中から主なものを抜粋して記載)

【統合について】

- ・複式学級ありきで考えるのではなく、佐用町独自の少人数を大切に教育方針を構築し、統合よりも地域活性化のためにも現行の学校数を維持しながら少人数のよさをいかした教育の充実を図って欲しい。全国の少人数モデルとなる佐用町独自の複式学級を撤廃した学級づくり、学校づくりを期待します。

- ・子どもたちが安心して学ぶことができるためにも、教職員数の確保は絶対であると考えます。統合再編されることで現在佐用町内で勤務している教職員の多くが異動等になるのは、教職員にとっても児童生徒にとっても悪い影響でしかないと考えます。

【教育施策について】

- ・活動をするうえで、人数がある方が良い場面もありますが、その前にその地域の子も達はその地域で安心した学びが継続できるように考えていただきたいです。
- ・いろいろな背景を持って生活している子、支援を必要とする子、きめ細やかに対応していきたい教職員、現状の教職員の数では現場は疲弊しています。町独自の方法で現場のスタッフ（複数指導、サポートルームの常駐、草刈りなどの校地整備など）を増員していただけたら、子どもたちにとって安心して過ごせる環境づくりがよりできると思います。

【校舎、施設について】

- ・現在議論されている学校の再編成は、佐用町の人口減をさらに加速させると考える。人口が減るから学校を減らすという考えは、人口が減るから町を統合するという考えにつながるのではないだろうか。佐用町の課題解決のための行政施策とリンクさせることが重要である。例えば、人口減の原因が若者の町外への流出であるのなら、流出を防ぐために佐用町内で働ける環境を整えることも取り組まれていることと思う。企業の誘致が叶わないのなら、今ある環境をフルに使うって産業を起すべきだし、リモートワークが可能な企業との連携と同時に、児童生徒に ICT 活用能力を身につけることを第一とすべきである。そのためのネットワーク環境の整備することもしていかななくてはならない。
- ・佐用町として、児童生徒にどのような将来を思い描かせたいのか、大人がまず真剣に考えるべきなのではないだろうか。
- ・人数が減少している中ではあるが、統合を進めれば地域の衰退は免れない。統合等の改革を進めるのであれば広く意見を募集し、みんなが納得したうえで行うことが重要である。また、少人数であっても利用している児童生徒にとっては必要な設備は整備されていなければならないと考える。

【登下校について】

- ・現在の学区ですら登校に時間がかかり、学校に来た時点でへとへとだという児童がいます。また地元の資源を大切に扱っている地元の人との交流をしていくたびに、学区が広がることで繋がりが薄れる地域もあるのではないかと危惧しています。今できることを、できる教育の中で一緒に考えていってほしいです。
- ・教員確保、再任用や講師が多すぎる。合併を見込んでいるとしか思えない。現役教師の負担が大きすぎる。いずれは合併が仕方ない時が来るとしても、合併ありきではなくまずは現行で最善の方法を考えてほしい。合併に向かうとすれば、教員定数の改善や通学方法等、繰り返し議論してほしい。小中学生が1時間以上かけて登校することは体力気力に無理があると思う

【部活動について】

- ・全国的な課題ではあるが、佐用町でも常勤教師が不足しており、授業数確保が困難になりつつある。生徒たちは9年間クラス替えも無く、人間関係の固定化により多大なストレスを感じている。規模的には中学校は1校でよい。ただ、居住範囲が広すぎて通学方法を検討しなくてはならない。姫新線を利用するにしても、スクールバスを使うにしても、放課後の部活動は不可能である。部活動を中学校現場から切り離すことが必要不可欠である。

【町の施策について】

- ・児童数が減少している現状の中で、子どもたちが生きる社会環境は急速に変化し、子どもたちが育つ家庭環境も多様化しており、さまざまな面で配慮、支援を要する児童が増加しています。そのため、定められた職員数では、一人ひとりに応じた支援や指導を実践することが難しい状況です。これからの社会を担う子どもたちに十分な指導、支援をしていくために是非、人を大事にする、人を育てる行政であってほしいと願います。そのためにも、学校で働く職員の人員確保や人に投資する予算の確保を強く願っています。
- ・縮充の学校をめざしていきたいです。少ないからこそ、住んでいる地域や他の地域、また外国の学校との交流など、様々な取り組みを展開しやすいと思います。

【佐用高校について】

- ・小中学校の統合は避けられないと考えている。ただ、通学がしやすい場所の選定が難しい。佐用小学校、佐用高校周辺を整備しなおし、小、中、高校が一体型の校舎が建設できれば一番よいと思う。

【その他】

- ・人数は少ないが、地域に学校を残してほしい。
- ・少ない人数の学級の中で生徒が育つため、高校に進学し、大人数の中で対応できない生徒を過去に見てきている。佐用町内の他校との交流を踏まえ、生徒のコミュニケーション力を強化していく必要があると思う。

(5) 児童生徒の自由記述について

今後の佐用町立小・中学校について、意見があれば自由に書いてください。

〈記載順〉

- ①統合：賛成 ②統合：反対／存続希望 ③通学（坂・距離・交通）
④行事（増やしてほしい／大きくしてほしい） ⑤交流（他校・地域） ⑥部活動
⑦校舎環境（老朽化等） ⑧安全⑨宿題・学習 ⑩その他（時間・制度など）

①小学生の自由記述（56人から寄せられたご意見等の中から主なものを抜粋して記載）

【統合：賛成】

- ・生徒の数が少なくなっている小、中学校から統合などの判断をすることがよいと思います。
- ・じどうたちの学校をいっしょにごうせいしたら学校のじんこうがへらない。
- ・児童が少なくなったら一緒にしたほうが良いと思う。
- ・ほかの学校と一緒にすれば良いと思います。

【統合：反対／存続希望】

- ・統合したら全校生徒の名前が分からなかったりするし、先生の数が少なかったら勉強を教えてくれる先生が少なくなるので統合は反対です。
- ・これ以上の合併はよくないと思います。
- ・小学校と中学校が合併してほしくないです。

【通学（坂・距離・交通）】

- ・登校坂をもっとゆるやかにしてほしい。
- ・小中学校が統合したときに生徒が無理をせず登下校ができるようになってほしい。
- ・もし上月小学校とかになったら電車（姫新線）でいきたい。

【行事（増やしてほしい／大きくしてほしい）】

- ・もっと魅力を増やしてほしい。小学校だけの色々なイベントを増やしてほしい。
 - ・他の学校の子達との交流をふやしてほしい。大きな行事をふやしてほしい。
- 「もっと友達が多くなってほしいし、大きな学校行事が多くなって欲しいです。」

【交流（他校・地域）】

- ・地域の学校と交流してもっと仲良くなりたいです。
- ・中学校と交流1回か、2回、何回でもいいから交流をしてみたいです。
- ・地域との交流をたくさんしたい。
- ・もっともっと他の学校の子とも交流をふやしてほしい。

【部活動】

- ・中学校で、部活を増やしてほしい。
- ・部活動を増やしてほしいです。佐用中学校のように吹奏楽部など、、、。
- ・部活が増えてほしい。

【校舎環境（老朽化等）】

- ・校舎を新校舎にして欲しい。
- ・学校を、広くして欲しい。

【安全】

- ・安全安心な学校が出来るとうれしいです。
- ・いじめの無い学校になってほしい。
- ・安心な楽しい学校になって欲しいです。

【宿題・学習】

- ・宿題を減らしてほしいです。あとさぼっているひとよりがんばっているひとをひょうかしてほしいです。
- ・宿題をへらしてほしい、あかるいじゅぎょうにしてほしい。
- ・宿題を少しだけ少なくして欲しい。

- ・楽しいと思える勉強をしたい。

【その他（時間・制度など）】

- ・業間や昼休みを増やしてほしい。
- ・げこう時間をはやめてほしい。ねる時間がほしい。
- ・学校にスマホもっていきたい。

②中学生の自由記述（65人から寄せられたご意見等の中から主なものを抜粋して記載）

【統合：賛成／前向き】

- ・小中学校を合併させて、小・中一貫の学校を作ってもいいと思います。
- ・もしも小中学校が統合するのなら、早い段階で1つの学校にしてしまった方がよいと思います。
- ・年々人数が少なくなっているのので、合併をした方がいいと思います。
- ・私は少子高齢化が進んでいて、このままだと何年か先には学校として成り立たなくなってしまうと私は思ったので他校との合併をしてほしいと思いました。

【統合：反対／現状維持・不安】

- ・私は、今のままがいいです。
- ・合併はあまりしてほしくない。
- ・人数が少なくなっても今のままで、合併しないほうがいい。
- ・通学時間や距離のことを考えて、僕は反対をしています。

【通学（坂・距離・バス）】

- ・通学が不安です。
- ・もし合併するのであれば遠い人もいると思うので、バスなどを出したほうが良い（中学生も）。
- ・家が遠い人には中学生でもスクールバスで送迎するべきであると思う。

【行事（増やす・合同）】

- ・小中合同で行事に取り組む。
- ・運動会を午後までやりたいです。
- ・学校行事や地域の行事はもう少し活発になってほしい。

【交流（他校・地域）】

- ・もっと他の学校と交流してほしい。
- ・他校との交流があまりないので増やしてほしい。
- ・もっと盛んに地域の人との交流や学校内で計画を立ててする行事などを増やして欲しい。

- ・毎日とても楽しく学校生活を送っていますが、もう少し小学校や地域の皆さんとかかわっていけるようにしたほうが良いのかなと思った。

【部活動】

- ・部活が運動部しかないので文化部をつくるのが良いと思う。
- ・中学校の部活をもっとがんばれるしくみにしてほしい。
- ・出来れば、合併して部活を楽しんでおこないたいです。

【校舎環境（トイレ・網戸・設備・老朽化）】

- ・トイレのドアの設置、網戸の設置（虫が入ってくるので、思うように換気や授業ができない）。
- ・校舎内の環境を綺麗にして安心して過ごせるようにしてほしい。トイレの入り口がのれんだけだからドアをつけるなどしてほしい。
- ・体育館にエアコンつけたらいいと思う。

【安全】

- ・いじめが無く、安全に登校できる佐用町立小・中学校になってほしいです。
- ・安心安全の佐用町になってほしいです。

【宿題・学習】

- ・校外学習増やしてほしいですね。小学校と比べると中学校は校外学習が少ないと思います。

【その他（時間・制度など）】

- ・何をしても人数は減っていく一方なので、子育て支援をしていったほうが良いと思う。
- ・僕は、どのような点が問題なのかよいところなのかがすべてはわかりませんが、何か問題を解決しないといけないときはできるだけ全員が納得の意見を見出してほしい。僕たちも協力できるため、とにかく少人数で抱え込まず、大人数でしっかり話し合してほしい。



V. アンケート全体のまとめについて

V. アンケート全体のまとめについて

本アンケート結果から、佐用町の小・中学校教育に対する町民の意識として、学校規模や統合再編の是非にかかわらず、共通して重視されている基本的な考え方と今後の教育の方向性に対する期待が明確に示された。

まず、小学校・中学校を通じて、「基礎的な学力の確実な定着」「安全で安心して学校生活を送ることができる環境」「児童生徒の健全な育成を支える支援体制の充実」が、最も重要な事項として多く挙げられている。これらは、学校教育において必ず確保されるべき基盤であり、人口減少や家庭環境の変化が進む中で、学校が果たす役割への期待が一層高まっていることを示している。

児童生徒数の減少への対応については、小・中学校ともに「統合再編を検討すべき時期にきている」と考える回答が最も多く、現状のままでは教育環境の維持が難しくなるとの認識が広く共有されている。一方で、「現行のままでよい」とする意見も一定数存在しており、学校が地域社会の中で果たしてきた役割や、地域とのつながりを重視する声も根強い。町民は、統合そのものを目的とするのではなく、教育の質がどのように確保されるのかという点を重視して判断しているものと考えられる。

統合再編を想定した場合に特に重視されているのは、通学手段や通学距離・通学時間、通学時の安全確保である。通学時間が1時間を超えることについては、子どもへの負担を懸念する意見が多く、統合の検討にあたっては、教育効果のみならず、子どもの生活リズムや心身への影響を十分に考慮する必要があることが示されている。また、適正な児童生徒数や教職員数の確保により、安定した教育環境の実現を期待する声も多く、統合に対する関心の背景には教育条件の改善への期待がある。

一方、学校を現行のまま維持する場合には、小・中学校ともに「少人数教育体制の充実」が最も重視されており、複式学級に対応できる教員の指導力向上や、他校との交流学习、オンライン授業等を活用した学習環境の工夫が重要な課題として挙げられている。小規模校の特性を生かしつつ、教育の質を維持・向上させるための人的・制度的な支援の充実が不可欠である。

さらに、町内の小・中学校と佐用高校が連携し、一貫した教育を進めることについては、「魅力を感じる」とする回答が多数を占めており、義務教育段階から高校までを見据えた教育体制の構築に対し、多くの町民が前向きな印象を持っていることが明らかとなった。その理由としては、将来の進路や職業を考えるきっかけになることや、高校生との交流による学習意欲の向上が多く挙げられており、学校段階を越えた学びの連続性や、地域全体で子どもを育てる教育への期待がうかがえる。一方で、「わからない」とする回答も一定数見られることから、連携の具体的な内容や教育効果について、今後さらに丁寧な情報発信が求められる。

以上のことから、今後の学校の在り方を検討するにあたっては、児童生徒数の推移や施設面の課題だけでなく、通学環境への配慮、教職員体制の充実、小中一貫教育や高校との連携の可能性、さらには地域との関係性を総合的に踏まえ、町民への十分な説明と合意形成を図りながら、佐用町ならではの教育環境の充実と、子どもたちの将来につながる学びの実現を目指していくことが重要である。



VI. ～みんなで未来の学校を考えましょう～／

佐用町立学校の在り方を考える会 開催結果報告

～みんなで未来の学校を考えましょう～／佐用町立学校の在り方を考える

開催結果報告

(1)開催概要

- ・開催形式：説明会および広聴会
- ・対象：各地区の自治会、保護者、一般町民
- ・開催日時及び場所
令和7年11月13日(木) 19時～ 上月中学校体育館
令和7年11月14日(金) 19時～ 佐用中学校体育館
令和7年11月17日(月) 19時～ 南光文化センター 大ホール
令和7年11月18日(火) 19時～ 三日月中学校体育館

(2)説明内容

- 学校の在り方検討委員会って？
- 子どもたちの人数の変化とこれから
- 小中一貫校、学校の統合、小規模校の特徴や可能性について



(3)実施人数・回答人数

参加者人数：141人

<内訳>

- ・佐用中学校会場 49人(うち保護者9人)
- ・上月中学校会場 33人(うち保護者4人)
- ・南光文化センター会場 26人(うち保護者5人)
- ・三日月中学校会場 33人(うち保護者9人)

(4) ■全4会場に共通した主なご意見

【全体キーワード】

小規模校と統合のバランス／通学時間とスクールバス／特色ある教育・小中高連携／不登校と教職員負担／人口減少・企業誘致と教育／保護者・子ども・地域の参画／会議の進め方

①学校規模・統合の方向性

- ・小規模校・複式学級でも、教職員は誇りをもって教育しており、規模だけで良し悪しを判断すべきではないという意見が複数の会場で見られる。
- ・一方で、中学校については「1校への統合」「切磋琢磨できる環境づくり」を求める声が強く、小学校はできるだけ地域に残したいという考え方が共通して見られる。
- ・将来的には、小中一貫校や小中高一貫校など、「一体的な学校」の形を検討すべきという意見も多い。

②通学手段・通学時間・家庭負担

- ・統合による通学時間の増加、とくに遠方からの通学負担への不安が、どの会場からも挙がっている。
- ・スクールバスのきめ細かな運行や、小中高が同じバス・鉄道を利用するなどの仕組みづくりが必要との意見。
- ・共働き家庭や祖父母に頼れない家庭では、学童保育や習い事、部活動の送迎など、仕事との両立が難しくなるのではないかと懸念が共有されている。

③教育内容・特色ある学校づくり

- ・英語教育を保育園から中学校まで一貫して行うなど、「佐用町ならでは」の特色ある教育を求める声複数の会場で見られる。
- ・「飛びぬけた独創性」を持つ学校、小中高がつながった学びなどを通じて、教育移住や周辺市町からの転入を呼び込み、人口減少対策にもつなげてほしいという期待がある。
- ・高校の魅力向上と存続も含め、他の市町からも「通いたくなる学校」をめざすべきという意見が共通している。
- ・「複式学級は悪」「一斉授業が正解」という考え方を見直すべき。

④教職員・学校運営・不登校

- ・全国的に不登校や問題行動とされる事象が増える中で、教職員の負担が大きくなっていることへの懸念が共有されている。
- ・統合により児童生徒数が増えると、不登校が増えるのではないかと不安があり、現状・把握や支援体制を明らかにしてほしいとの要望がある。
- ・「縮充のまちづくり」とあわせて、学校における「縮充」（教育内容の充実と効率化など）や教職員の勤務環境をどう整えるかが、共通の論点となっている。

⑤地域・コミュニティ・保護者・子ども参画

- ・コミュニティ・スクールや地域との連携プロジェクトを通じて、地域と子どもの関わりを強めていきたいという期待がどの会場にもある。
- ・小学校は、地域の良さを学び、ふるさとを誇れる心を育てる場であり、できるだけ地域に残したいという共通認識が示されている。
- ・若い世代や子育て中の保護者、とくに女性の声を拾い上げ、意思決定に関わる仕組みづくりが必要との意見が複数の会場で挙がっている。

⑥町の人口・移住・産業政策と教育の一体的検討

- ・子どもの減少は、学校だけの問題ではなく、企業誘致や仕事・住まい・結婚支援、有名大学誘致など、町全体の人口対策と一体で考えるべきとの声が多い。
- ・「工場がない・会社がない」現状を変えなければ、子どもは減る一方だという危機感が共有されている。
- ・学校配置や統合の議論は、縮充のまちづくり、人口・産業政策とセットで、長期的な将来像を示した上で進めてほしいという要望が出されている。

⑦会議・広聴会の進め方

- ・参加者に高齢者が多く、現役の保護者や若い世代の声が十分に届いていないのではないかという問題意識が共通している。
- ・説明資料の文字の小ささ、モノクロ印刷、説明時間が長く意見交換が短いといった指摘があり、小グループ討議の導入や資料のカラー化、保護者が参加しやすい時間帯・形式（参観日に合わせるなど）といった改善策が求められている。

(5)各会場でのご意見一覧

	<p>日 時 令和7年11月13日(木)</p> <p>開 会 午後7時00分</p> <p>会議場 佐用町立上月中学校体育館</p>
1	<p>規模適正化という言葉が多用されるが、これまでもずっと国基準の規模には届いていない。その中で教職員は頑張っており、人数は少ないがしっかり子どもを教育している。学校規模は小さいが、子どもにはいろんな経験をさせてやりたい。複式学級もダメなわけではない。教員も子どもも誇りをもってやっている。佐用町が進める縮充に関する言及がないのはなぜか。学校だけ早々に規模をまとめるのはいかがなものか。生徒が少ない学校より、多い学校のほうが優秀なのか。そうではない。規模だけで論ずるのではなく、学校における縮充とはどんなものなのかを考えるべきである。</p> <p>部活動は地域移行になるので、学校単位ではなくても大丈夫なのではないか。文科省も人口減少、少子高齢化の中で、制度や基準を変えてくるのではないか。ある程度の規模が必要なことは分かるが、ここで学ばせたいという魅力ある教育を提供することで、選ばれる・残っていける学校ができるのではないか。町は若い世代の移住施策などに尽力すべきである。</p>
2	<p>佐用高校の敷地内に、町立小・中学校をもってきてはどうか。小学校は当面4校を維持し、複式学級になる前に統合してはどうか。佐用高校には農業科学科や家政科もあり、豊かな学びにつながり、最高の教育状況となるのではないか。中高校生が一緒にいることで、小学生のうちから将来のことについて考えられる流れが生まれる。人数が減っているのはもう目に見えており、しかならないことなので、新たな工夫をすべき。統合すると通学が大きな負担となる。きめ細やかな運行を行うスクールバスの確保が重要である。小中高が同じスクールバスで通学してはどうか。20年先には、未来の学校の形になるのではと期待している。</p>
3	<p>アンケートに答えたが、回答は少しは役立つのか。保育園から小中学生まで英語が学べる等、佐用町の教育の特徴を出すべきである。そうすることで、通学可能な姫路等からの転入者が増加するのではないか。</p>
4	<p>今回の会の説明会を受けて、検討委員会に入りたいと考える人もいるのではないか。委員の追加募集はあるのか。</p>
5	<p>子どもの視点が最も重要ではないか。アンケートでも触れられていた連携プロジェクトはとても有益であり、町民と子どもの結びつきをより強めていただきたい。</p>
6	<p>私個人としては、学級数が多いほうがよいと考えている。人数が増えることによって、不登校になる子が増加する可能性がある。そのような状況や不登校の子どもについて、教育委員会は把握しているか。</p>
7	<p>対象者によってアンケートの実施時期が違うのは、何か意図があったのか。</p>
8	<p>このような堅苦しい場では、意見が言いにくい。忌憚のない意見を集めたいので</p>

	あれば、5, 6人程度のグループ討議形式にすれば意見が出やすいのではないか。
9	なぜアンケート結果も全て集計できていないこのタイミングで説明会を開催したのか。資料も文字が小さくて見難い。寒い時期になぜ体育館で開催するのか。また、委員の任期は。
10	上月地域は、保育園・小学校・中学校が近い場所にあり、交流のためにもとてもよい条件となっている。今後もし統合をするのであれば、岡山県美咲町のような小中一貫校なども検討していただきたい。未来はある程度見通すことができるので、統合するのであれば、段階的に行い次の統合を再び考えるのではなく、1校にすべきではないか。
11	小中学校4校を1校に統合し、大勢の中で多様な人間関係を築きながら切磋琢磨することを望むが、現在でも学校へ行けない子どもの対応はどうか？学校へ行けない理由は分かっているのか。説明会は良かったと思うが、広く意見を集めたのであれば、4～6人程度の小グループに分かれ、教育委員会事務局及び検討委員がグループ討議に参加する形式で、意見を集めた方が良いのでは。全体の中でマイクを持つての意見は言いにくい。

	<p>日 時 令和7年11月14日(金)</p> <p>開 会 午後7時00分</p> <p>会議場 佐用町立佐用中学校体育館</p>
1	私の時代、佐用中学校は各学年3クラスあり、現状に驚いている。宍粟市の千種にある小中一貫校の話を先日知人より伺ったが、優秀な学生もおられるようで、佐用町においても将来的には小中一貫校が望ましいのではないかと考える。家族も中学校で部活動の選択肢について悩んでいた。部活動の関係で上郡町へ通っている学生もいると聞く。様々な意見があると思うが、近い将来に児童生徒がこれほど減少するのは、佐用町の行政にも少し問題があるようにも感じる。人口も減り続けており、寂しくもある。個人的にはスポーツが中心となった教育に期待したい。勉学を優先する子どもには、高校の存在も重要である。他の町から佐用町に住んでみたい、まずは中学に行ってみたい、といった近隣市町からも目的とされるような魅力があれば嬉しい。5年10年先を考えると、1校にし、小中から高校まで含めた一貫性のある教育方針がよいのかもしれない。通学手段が心配されるが、前向きな方向で、子どものため、地域のために進んでいただきたい。
2	この会に来て、女性参加者が少なく驚いている。佐用町が消滅可能性自治体に入っているということを最近知った。消滅可能性自治体の平均的な数値では、2040年度までに20歳から39歳での女性が50パーセント以下となる可能性もあるという。これから出産し、子どもを育てていく女性の声を拾い上げたり、決定権を渡すようなシステムが必要ではないかと感じた。

3	アンケート結果では、4校が1校となるのが一番望ましいとのことだが、一方で保護者としては通学時間に関する不安がある。実際に通学時間が1時間を超えとなると、子どもにとっては大きな時間だと思う。実際に通学時間が1時間を超える児童生徒はどの程度なのか。
4	保護者としては、仮に統合するとなると、今後について慎重に考えなければならないので、時期が気がりである。考えや案を公表していただくと嬉しい。
5	兵庫県の複式学級の基準は理解できたが、国の基準はあるのか。また、それはいつできたものか。平成23年と現在とでは、基準が変わっているのではないか。
6	統合はやむを得ないと思う。できれば小中一貫校として、効率的な運営ができれば、問題が減少すると思う。それほど児童生徒数は減少している。スクールバスのことを考えると、ふれあい町民プールの横にある佐用小学校が良いのではないか。地域振興の関係では、1つの企業において雇員数が30人以上、もしくは50人以上の企業を誘致するといった、条件付き企業誘致政策をとってはどうか。「工場はない」「会社はない」では子どもが減少する一方である。
7	佐用町の現状等についてご説明ありがとうございます。非常にわかりやすかった。現時点での町民アンケートの意見を拝見させていただいたが、今後の学校教育を推進されるのは教育委員会であり、教育長だと思われる。現状ではまだその方針は固まってないとのことだが、現状の段階での構想や、5年後10年後20年後、このような形で進めていく、といった方針などがあれば教えて欲しい。それを示すことで、建設的な意見交換が可能となると考えるので、可能であればお願いしたい。
8	<p>教育委員会の事務局の皆さんが頭を抱えている状況がお察しできる。状況としては、1小学校1中学校でやむを得ないと思う。仮にそのようにしたとしても、将来的には極めて小さな学校となる。少子高齢化時代における学校教育というところで、地域の中には限界集落もある。地域の様々な役員の担い手も不足しているような状況で、将来的な展望を考えた場合、子どもたちにはふるさとを愛し、地域を目指すという心を持ち続けて欲しい。</p> <p>私の考えと思いとしては、小学校の間は地域に根ざした地域に対する教育が必要である。地域の良さを知り、地域を誇りに思う心を植え付けてあげたいと思う。教育委員会事務局には、県教委に対して教員単独措置を要望して欲しい。そして佐用町としても町単独での教職員確保について全力で取り組んでいただきたい。複式学級についてはデメリットも非常に大きい。複式学級とならないための措置を教育委員会事務局として重点的に取り組んでいただきたい。そして、可能な限り今の旧4町4小学校を残してあげたい。ただ、中学校については、切磋琢磨が必要である。高校、そしてより大きな世界に飛び出すときに、基礎学力も当然必要であり、複雑な人間関係を乗り切る力が必ず必要である。部活動については地域展開という大きな方向性を国が示している。地域展開のためには1つの中学校で、同じような条件のもとで進めるということが必要ではないかと思う。</p>

9	<p>この会に来て、女性参加者が少なく驚いている。佐用町が消滅可能性自治体に入っているということを最近知った。消滅可能性自治体の平均的な数値では、2040年度までに20歳から39歳の女性が50パーセント以下となる可能性もあるという。これから出産し、子どもを育てていく女性の声を拾い上げたり、決定権を渡すようなシステムが必要ではないかと感じた。</p>
10	<p>誰かに佐用町をどういう町にしたいかと問うと、多くの人が「魅力ある町にしたい」と答えると思う。しかしこの資料を見ると、私は減少傾向があまりにひどく愕然とした。魅力ある佐用町にするための前提としては、まず子どもの減少数を減らすための対策を、町長をはじめ最優先事項として行わなければならないと私は思っている。具体的には企業誘致である。また、私達の集落の中には50代60代の独身男性が多くいる。佐用町でも婚活事業等を行っているが、年齢制限が40代ぐらいまでとなっている。なぜ50代60代の方は参加できないのか。その人たちも結婚して将来子供を授かる可能性もある。こういったことも対策の1つとして、町が本気になって考え、政策も見直さなければならない。これが最優先だと思う。アンケートも非常に大切だが、それ以前に町が取り組むべきである。</p>
11	<p>今ここで集まり、様々な意見を吸い上げるというふうに言われたが、10年後にも同じようなことをされるのではないか。平成23年においても、現在のことは予想できたはず。通学時間が1時間かかることが大変だということについて、まだ仮定なので分からないと言われるが、そちら教育委員会はプロだと思うので、生まれた子どもたちがどこに住み、その子たちがどのくらいの通学時間で、そして何人いるか。統合により給食配達を1ヶ所にすると予算ができる等、場所は分からないとしてもそれなりに計算をして、教育委員会から統合すると予算がどのくらいとなり、余った予算をどれだけ教育の実施に回せるかを可能であれば示してほしい。私達は学校に常にいるわけではない。しかしそちらはプロなので、これだけの教育が実施可能だとか、部活動がこのように変わりますという情報をいただいて、それを私達にもフィードバックし、意見交換をさせてほしい。私達の意見ばかりではなく、もう少し計算データを持って、しっかりと示していただいた方が、また10年後に会ったときに、同じこととなる。それよりも、20年先を考えて、明るい未来を示していただいた方がありがたいと思う。</p>
12	<p>説明通りの予測数値だと、非常に寂しい。暗い話になり夢がないように感じる。しかし、通学に1時間かかる地域は本当にあるのか。</p>
13	<p>「縮充のまちづくり」というものがあるが、学校の在り方についても、町全体の戦略として、将来の町づくりの中で、学校の教育をこうしていくんだというはっきりとした戦略を立ててもらいたい。そして、子どもが中心なので、保護者の意見を最大限尊重して結論を出していただきたい。</p>
14	<p>最初に一貫校の話が出ましたが、県も高校の統合を進めている。高校の存続を願うならば、小中高一貫校を目指すべきかと思う。通学手段については、スクールバスと姫新線を利用する。10年後にまたこういう話をするのかという話が出ていたが、可能なら早急に進めていただきたいと思う。</p>

15	<p>先ほど女性の方が言われましたが、本会の女性参加者が非常に少ない。このような場に女性が出てこなくてもいい、もしくは参加しにくいという風潮が佐用町の中にあるが、そんなところへ人を呼んで移住者を集めたいと言ったところで、女性が活躍できないようなところに都市部からの移住者は少なく、子どもの数は増えない。これは今までの日本の国全体としての行政の大きな間違いだったと思う。また、有名進学塾では、リモート等で優秀な教授を呼び、講義をしている。それを学校教育にも組み込んだらよいのではないかとも思う。そうすれば小規模校であっても、リモート等で様々な授業が展開できるのではないか。しかし、先ほど言われたように人数が少ないところでは、競争が少ない。部活動においても、佐用町はこういう部活動に特化し推進しているということも含めて考える必要がある。大勢の中で行動することによって競争意識も生まれるが、しかし優秀な子どもが出てくる代わりに、逆の子どももあり、難しい部分がある。1つの特化したものを用意すべきで、特色は出さないと誰も集まってきてくれない。</p> <p>もう1つは、前回の学校統合に際し、教育委員会へ直接、案を提示したが断られたことがあった。今回は様々な意味合いで幅広い意見を聞きながら、町民の気持ちも含めて伺いたいということなので、そのようなことはないだろう。そして提案としては、子どもが定期券を持ち、姫新線を利用することは金銭利用の計算という意味でも大切だと思う。検討いただきたい。</p>
16	<p>通学時間については今後検討されていくとは思いますが、方法はスクールバスや自転車があると思う。しかし通学時間と言っても実際は家を出る1時間ほど前から準備をする。中学生と小学校1年生とでは準備時間にかなりの違いがあると思う。その点も考慮しながら進めて欲しい。また、先日佐用小学校の職員室を目にすることがあったが、窓にはカーテンがかかっており、中の様子が見難かった。職員室内も拝見する機会があったが、書類等が多く、教職員の人数も多いのでスペースが少ないと感じた。統合前の小規模校では様々な点で目が届きやすい環境があったが、現場の教職員の皆さんの職場環境整備も視野に入れて進んでいただければと思う。</p>
17	<p>保護者の参加が少なかったので、日時は平日の昼間等(参観日など)、集まりやすいタイミングでの説明会をしていただけるとありがたい。</p>
18	<p>とてもいい会議でしたが、今後は複数のチームに分かれて、グループワークを行うのも良いかもしれません。もっと若い人にも参加いただける方法があれば良いと思った。</p>
19	<p>長野県佐久市に「教育移住者」が7割という小学校がある。インターネットの情報では、2019年に日本初のイエナプラン(異学年学習)認定校で「学校法人茂来学園 大日向小学校」という学校。子どもひとりひとりの個性を尊重しながら自立と共生を学ぶ教育とのこと。詳しいことは知りませんが、独自の教育が人(移住者)を呼ぶということはあると思う。</p> <p>佐用町にも「飛びぬけた独創性」を持つ学校を実現して移住者を呼び込み、人口減少にも少子高齢化にも効果がある方策として検討していただきたい。佐用町出身者が自身の教育体験を誇れる、そんな学校教育環境を作っていって欲しい。</p>

	<p>日 時 令和7年11月17日(月) 開 会 午後7時00分 会議場 南光文化センター大ホール</p>
1	<p>説明資料のメリット・デメリットについて、内容が重複しており、個々の感想程度にしか見えない。このメリット・デメリットを示す根拠となるデータがあればお見せいただきたい。例えば不登校が何人増えている、学力について学級単位で平均点数は全国と比べて何点高いか、何点低いから専門的な学習ができていないだとか、そういった資料があれば教えていただきたい。</p>
2	<p>小学校に関して、例えば4校を2校にしたとして、1校は国の基準を満たすようなクラス替えができる環境の小学校を作り、もう1校は少人数制で個別対応ができるというような、特色の違う2つの学校を作るといいのではないかと思う。というのも、昨今においては子どもの状態も以前と比べ多様化している。佐用町独自で特色を出せる部分ではと考える。それにより子育て世代が佐用町に移住したり、町外に出ている現役世代が佐用町に戻ってくればと思う。</p> <p>中学校に関しては、野球部は今でも2校3校が合同で1チームを作って試合に出ており、それが過去から続いている。野球部をやめてしまうのが1つの案ではないかと考える。野球は人数が多い競技なので、人数が少ない学校では個人競技の部活動に限定して行うほうがいいのかも。というのは、個人でも面白い競技がたくさんあり、野球は近隣にクラブチームも複数あると聞いている。</p> <p>また、本会の保護者の参加人数が少ないと思う。保護者の意見について、現在アンケートを実施しているが、繰り返しアンケートを実施するなどして保護者の意見を取り入れた上で、学校の適正規模を考えていただきたいと思う。</p>
3	<p>今回のアンケートが届いたときに、アンケートの質問項目を見て、佐用町の教育計画を見直さなければ回答しづらいと感じた。私が知らないだけかもしれないが、アンケートの回答前に、保護者等のアンケート対象者向けに説明会をされていたのか知りたい。また、現役の子どもの保護者は本会に来るべきではと思う。参加人数が少ないので、本当に意見が聞いているのか疑義が生じる。この人口減少の問題自体は、人口統計をとっているのだから、おそらく10年も15年も前に予測できていたと思っている。もっと早く考えて欲しかったと、アンケートが届いたときに憤りを覚えた。そしてこの問題は、未来のことなので、今の現役世代保護者が直面する問題ではないかもしれない。よってこの課題については、ネガティブに捉えるというより、前向きに捉え、ICTの導入等の思い切った教育改革が必要である。佐用町で子どもを育てたい、佐用町の教育を受けさせたいという環境構築は、アイデア1つで可能ではないかと思う。人材育成についても前向きにとらえ、世界に出ていけるような子どもを育てる一方で、不登校の子も支えていくというような取り組みを期待したい。</p>

4	<p>佐用町は4中学校ですが、たつの市の新宮では3年後に小中一貫校ができる。新宮中学校では昔から5つの小学校が1つの中学校へと進学しており、広域から生徒が集まっていた。面積の関係では、旧新宮町約100平方キロメートルで、旧佐用町よりも少し狭いくらい。今の佐用町は約300平方キロメートルあり、中学生の総数だけで比較をすると、おそらく新宮中学校と佐用町の4中学校とでは、あまり変わらない。佐用町において、統合の最も難しい点は、約300平方キロメートルもある中で、通学をしなければいけないという難しさである。それを踏まえ、これから統合等について考えるには、魅力のある学校にしなければならない。佐用町でも数回の統合は経験しているが、20年くらい経過すれば、また考えなければならない。今回は、最後の考える機会になる可能性もある。教育委員会は本当に大変で、意見だけを言うのは勝手だが、魅力のある学校を作らなければならない。それは校舎も教員も同様である。教員がたくさんいるというのも魅力の1つになると思う。規模が小さいと教員の数も少なくなる。様々な教員がいないというのは、そこで学んでいる子どもたちにとっても残念なことと思う。様々なタイプの教員、多様な教員と出会うことも大切だと考える。大きな学校には特有の困難があり、わからない部分もあるが、今回が最後の機会ではないかと考えるので、しっかり考えてもらいたいというのが願いである。</p>
5	<p>小学校中学校は居住地の学校へ行くというのが基本だが、先ほどタイプの違う小学校を2つ作るという、面白いことを言われていました。タイプの違う小学校を2つ作るのであれば、学校選択性を考えなければならない。現在は通学の問題もあり、学校選択性が難しいと推測するが、姫新線を利用するのであれば、可能ではないかとも考える。</p>
6	<p>参加者に高齢者が多く、現役の親の意見こそが1番必要だと思うので、会議のやり方を考えて、保護者が参加しやすい会議をしてほしい。または、すでに行ったアンケートを行うなど、会議に参加できなくても、子どもを持つ親の意見を十分に取り入れたうえで、考えていく必要があると思う。</p> <p>スライドが小さくて見えない。資料も薄くて、特に高齢者には見づらいので、お金がかかったとしてもカラープリントで印刷してはどうか。時間のほとんどが説明時間になっているので、事前に資料を送付し、前もってアンケート結果などを理解している人に来てもらうことで、より多くの意見交換ができると思う。</p>
7	<p>メリット・デメリットに対する根拠がないため、考えることができない。</p>
8	<p>児童生徒数の実態を取り巻く大人の考え方の傾向は分かりましたが、町としての方向の提示がない。今後、結果報告の時点で、意見を述べる機会があるのか。</p>

	<p>日 時 令和7年11月18日(火) 開 会 午後7時00分 会議場 佐用町立三日月中学校体育館</p>
1	<p>平成23年度の統合案については中学校の話も出ていたが、結局未実施となっている。教育委員会も当然ご存じだと思うが、教育総合会議で町長に答申もされている。当時、まだ子どもが多かったということもあったが、中学校は1校に統合ということだった。通学手段としては、スクールバスということで、一案のみだった。ここで懸念されているのは、通学時間であり、非常に時間がかかることと、スクールバスの運行委託料ではないか。小学校統合のときは、当然金銭負担がかかるということと、通学時間がかかるということを町長がおっしゃっていた。それは承諾されたと思うが、中学校において、まだそれ以上に経費がかかるという問題は必ずあったように思われる。よって今回は2、3案をまとめていただき、可能であればそれぞれのメリット・デメリットをまとめて、答申に盛り込んでいただきたい。</p> <p>もう一点は、現状の学校のままでもよいという意見もたくさんあるかと思うが、中学校については、10人前後が小学校から中学校までの約10年間、同じメンバーというのは本当に適当かというところを非常に強く思っている。中学校だけは統合を進めていただければと思っている。通学の件は問題になると思うが、姫新線が存続している場合は、駅前駐輪場を整備し姫新線での通学をしていただきたいと思う。定期代として年間予算500万円ほどで可能かと考える。姫新線は運行表や発着駅の関係もあるが、現状1,000万円程度でJR株式約3,000株を購入できると推測する。株主となり、株主提案として意見を出すということも考えていただきたい。そして校舎について、上月中学校が一番新しい。加えて保育園、小学校、中学校がまとまっており、環境として非常に良いと思っている。しかし、姫新線には廃線の可能性もある。減便は避けられないかもしれない。鉄道として維持することについて、町として何かをしてあげられないかと思っている。佐用町からの転出も今後増加するだろう。たつの市に通学している高校生もおり、姫新線だけは残るように努めてほしい。これは佐用町の人口とも大きく関係している。</p> <p>佐用高校について統廃合の話があったが、上月では保育園、小学校、中学校がまとまっている。仮に佐用高校が廃校となり、可能であれば佐用高校の場所に小中学校を持っていくというのも、思案するところかと思われる。ただし、それは限定的な移行ということで、佐用に最終的な統合校を持っていくということだけは、ないようにしていただきたい。</p>
2	<p>最初の説明資料8ページの学校再編統合のメリット・デメリットの部分に関して、メリットとしての人間関係に、クラス替えができることで固定化された人間関係が改善し、多様な友人関係が築けるとあるが、残念ながら、佐用町の学校が全て集まったとしても、クラス替えができるのは数年にとどまるというのが、この統計データからも見て明らかなので、それがメリットとして表示されることに違和感を感じた。</p> <p>通学時間が多く、時間を取られてしまうというのは不安な点であり、大変危惧して</p>

	<p>いる。私が三日月地域に引っ越してくる際、小学校があるというのは非常に大きな条件だった。小学校がなかったら選ばなかったと思う。これからの子どもの数や人口でいうと、人口全体が減っていく中で、学校があるというのは、学校の問題だけではなく、地域の大きな問題かと思う。子どもたちが小中学校で過ごす時間というのは9年間だが、それで終わりではなく、その子どもたちがその地域でこれからも生きていくときに、そのコミュニティがどんどん小さくなっていくということを許容するのかが議題になっていると感じている。三日月地域は町内でも人数がとても少なく、声の大きさも小さくなりがちだが、数字だけで捉えるのではなく、一つ一つの意見として丁寧に拾っていただきたく、お願いしたい。</p>
3	<p>三日月地域はどうしても声が小さくなってしまいうということがあるので、その点は考慮していただきたいというのが1点。その中で、三日月地域には一番長い間、保育園、小学校、中学校が1校ずつあった。そういう意味では、町の中での先進的事例が多くある中で、中学校卒業後に高校に入学し、その中で皆さんがどのように過ごされているかというところの調査は、おそらくあまり町ではされていないと思う。私を感じる中では、友達が固定化している中で高校まで進学した時に、いろいろ課題を抱える生徒が多かったように思う。ただ、私が知っているのは以前の話で、最近の動向については分からない。そういったことを感じていた時期があったので、子どもたちが1校のみでずっと進学することが本当に良いことなのか、もし調査が可能であれば、調査いただきたい。</p>
4	<p>令和7年9月に令和6年度の学校における不登校や問題行動を文科省でまとめたものが発表された。この問題行動という言葉は好きではないが、不登校や問題行動が全体的に増加しているということだった。どこの学校でも児童生徒は減少しているが、不登校や問題行動の比率は増加しているということではないかと思う。そうすると、一つは教職員の皆さんの負担が以前よりも増しているということ。そのことに対して、佐用町でどのように対応していくかについては、魅力ある学校づくりという観点で佐用町独自の取り組みがあってもいいのではないかな。その点をぜひ検討いただきたい。</p>
5	<p>私が期待を寄せている一つにコミュニティ・スクール構想がある。以前より佐用町のコミュニティ・スクールの集まりに参加させていただき、地域の方と子どもたちの関わりがより一層強まればよいと感じている。コミュニティ・スクールについては始まったばかりであり、先生方も模索している中で、地域の方も今の子どもたちとどのように接したらいいのかという迷いの中、進めていただいているところかと思う。この点も、もし今後検討委員会や教育委員会のアンケートがあれば、盛り込んでいただけたらと思う。</p>

6	<p>小中学校統合は、児童生徒数の減少も考慮し必要だと思う。しかし、人数の一番多い佐用小学校、佐用中学校に統合されると、三日月地域は一番通学時間が長くなり、それが1番心配である。</p> <p>また部活動や放課後活動時間のスクールバス等の交通手段がどのようになるのか心配である。中学生になれば、子どもたちで通学できるが、小学生は親の負担が大きくなるのではと不安であり、放課後の習い事も難しくなる。他の地域の子どもの学力等の差につながるのではと考えてしまう。</p> <p>また、両親が共働きで祖父母にも頼れない家庭は、学童保育等の送迎も、遠くの学校になれば時間内に仕事が終わってから迎えに行けるか不安である。三日月地域より東方面で勤務している家庭も多くあると思うので、迎えの時間がより困難になると考えられる。他地域の意見であった、小学校は現状のままで、中学校は統合という意見はいいなと思った。</p>
7	<p>今後の生徒数の変化や時期を考えると次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まず、中学校の統合を早急に進めるべきである、4校から1校に。通学距離・時間検討は必要であるが、1番は生徒数の問題だと思う。 2. 小学校も早いうちに検討を進めるべきである。 3. 今から統合を検討はじめてもすぐには統合できないので、まずは始める。段階的に進める流れは、無駄が多いと思う。
8	<p>平成23年策定の「佐用町小中学校・保育園規模適正化推進計画」によると、長期的には中学校の統合を視野に入れる必要がある。想像以上に人口が減少しており、大谷選手が日本全国の小学校にグラブの寄贈をされたが、今のままでは野球はおろか、スポーツ活動が出来なくなる。早急に学校統合計画をすすめるべきである。私が中学生だったらと思い、意見を書きました。</p>